

飯田市議会要覧

令和元年6月

飯田市議会事務局

飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に
つまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進してい
ます。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな
市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいに
はげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年7月5日 施行)

市章 ～市章の象形～
平仮名「い」を組み合わせ
「田」を形どり「いいだ」
を象形する。



目次

I	沿革	
1	沿革	1
2	人口と世帯の推移	3
3	飯田市自治基本条例	4
II	市議会の構成	
1	構成	10
2	議員名簿	12
3	正副議長及び各委員会委員名簿	13
4	監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	13
5	議会選出の各種委員等	14
6	各会派及び各会派の代表者氏名	16
III	市議会の活動	
1	市議会の活動状況	
	(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	17
	(2) 議会開会状況	17
	(3) 議会審議状況	18
2	報酬・その他	19
3	定期刊行物	20
4	市議会会議録	20
5	議会事務局の事務分掌	21
IV	飯田市の概要	
1	平成 30 年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	22
2	飯田市行政組織機構図	30
3	職員の定数	32

【 資料編 】

V	市議会のあゆみ	
1	市議会議員選挙執行状況	33
2	歴代市議会議員	
(1)	歴代議長	34
(2)	歴代副議長	35
(3)	歴代総務常任委員会正副委員長	36
(4)	歴代社会文教常任委員会正副委員長	37
(5)	歴代産業建設常任委員会正副委員長	38
(6)	歴代予算決算常任委員会正副委員長	38
(7)	歴代建設環境常任委員会正副委員長	39
(8)	歴代議会運営委員会正副委員長	40
(9)	歴代監査委員（議会選出）	41
(10)	歴代事務局長	42
(11)	歴代市議会議員	43
3	1年間の記録	
(1)	付議事件及び議決結果一覧表	50
(2)	議会において執行した選挙・選任等	58
(3)	委員会活動開催状況	58
(4)	請願陳情	59
(5)	定例会の質問事項	61
(6)	本会議等傍聴状況	88
4	市議会のあゆみ（昭和46年から）	89
VI	参考資料	
1	都市宣言	105
2	市制提携に関する覚書	109
3	友好都市締結	109
4	飯田市の主要年表	110

I 沿革

1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を發し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。伊那盆地の河岸段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に101,111人（平成31年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある文化や産業活動が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC一天龍峡IC間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

さらに、2027年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、長野県の南の玄関口及び三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

三遠南信地域連携ビジョン等ともあいまって、激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として本市の果たす役割が期待される。

1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決、以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の近年の取組として最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月、政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月20日には、市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足、同会議は条例の制定に向けた研究を行い、同年12月28日にその成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。市議会は翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、2度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、自治基本条例の案を平成18年9月21日に議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートし、開かれた議会を実現するための「議会活動報告会」も同年度から開催され、「議会報告会」と名称変更して継続している。平成23年1月から、条例中の「議会の役割」について議会による検証が開始され、平成24年3月には、これまでの検討を踏まえ「議会改革・運営ビジョン」を取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置した。議会改革推進会議では、1年をかけ課題として整理した29項目すべてを検討し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として取りまとめた。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置している。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトを発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和年5月の臨時会において常任委員会として「予算決算委員会」を設置した。



人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km²)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和61. 4	26,469	92,096	43,709	48,387	〃
昭和62. 4	26,573	92,179	43,783	48,396	〃
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併
- ・平成22年 2月 : 天龍村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

目次

前文

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 自治の基本原則(第4条—第7条)

第3章 市民等の役割(第8条—第10条)

第4章 地域自治(第11条—第15条)

第5章 市政運営(第16条—第21条)

第6章 市議会の役割(第22条—第27条)

第7章 市の執行機関の役割(第28条—第34条)

第8章 住民投票(第35条)

第9章 条例の見直し(第36条)

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

(条例の位置付け)

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

(用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

第2章 自治の基本原則

(自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

(市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

(情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

(参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

第3章 市民等の役割

(市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べるすることができます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

(市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

(事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

第4章 地域自治

(市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

(地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が活かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

(地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

(まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

(自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織(地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。)の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報の保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第23条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

- 2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
- 3 市議会は、議会報告会の開催等を通じ、前2項に規定することの実現に努めます。

(市議会議長の責務)

- 第24条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
- 2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

- 第25条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
- 2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
 - 3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

- 第26条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
- 2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

- 第27条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
- 2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第7章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

- 第28条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
- 2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

- 第29条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

- 第30条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
- 2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第31条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第32条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第33条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第34条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第8章 住民投票

(住民投票)

第35条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

第9章 条例の見直し

(条例の見直し)

第36条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第1条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行します。

附 則(平成23年11月30日条例第25号)

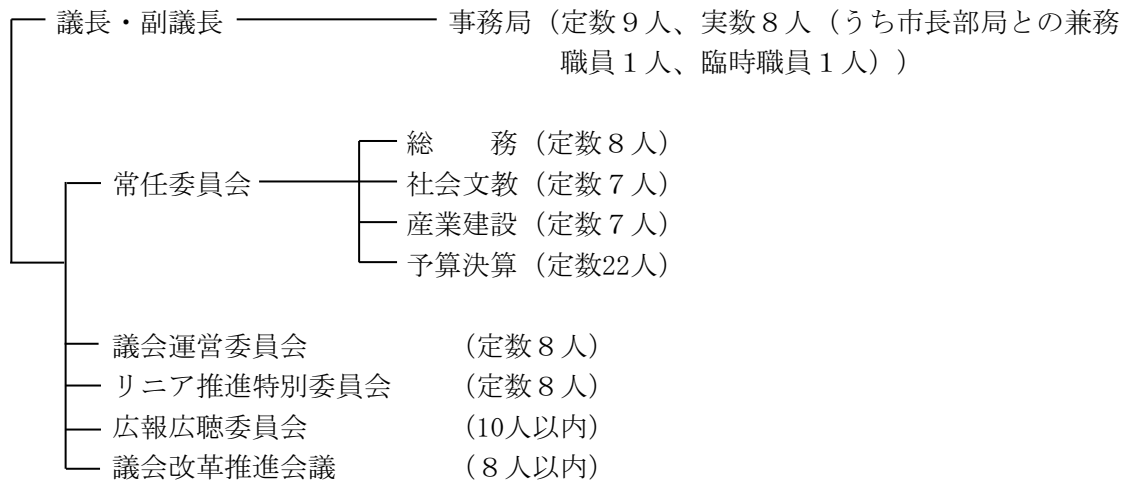
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成25年3月25日条例第2号)

この条例は、公布の日から施行する。

II 市議会の構成（令和元年5月31日現在）

1 構成



※平成25年4月28日から常任委員会（予算決算委員会を除く）単独所属体制

(1) 常任委員会

ア 所管事項

- (ア) 総務委員会：総務部、総合政策部、市民協働環境部、市長公室、危機管理室、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会：健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項
- (エ) 予算決算委員会：予算、決算及び行政評価に関する事項

イ 任期 2年

(2) 議会運営委員会

ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

イ 任期 2年

(3) リニア推進特別委員会

ア 所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

イ 任期 2年

(4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項
- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項

- (ウ) インターネットを利用した会議公開に関する事項
 - (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
 - (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
 - (カ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
 - (キ) その他議会の広報に関する事項
- イ 任期 2年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成22年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

イ 任期 2年

(6) 議員

ア 任期 平成29年4月28日から平成33年(2021年)4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 23人

(ア) 党派別

公明党 3人 日本共産党 2人 無所属 18人

(イ) 会派別

会派のぞみ 13人 会派みらい 3人 公明党 3人
市民パワー 2人 日本共産党 2人

2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	自宅電話等
1	清水 優一郎	会派のぞみ	1	〒399-2223	千栄532番地	27-4858
2	岡田 倫英	会派のぞみ	1	〒395-0023	江戸浜町3661番地12	48-6074
3	塚平 一成	会派のぞみ	1	〒399-2563	時又1037番地1	26-9137
4	竹村 圭史	会派のぞみ	2	〒395-0244	山本1407番地	25-2247
5	小林 真一	公明党	1	〒399-2601	虎岩2207番地1	29-8167
6	福澤 克憲	市民パワー	1	〒395-0025	東中央通5丁目20番地4	53-1285
7	古川 仁	日本共産党	2	〒395-0803	鼎下山677番地5	53-3792
8	木下 徳康	会派のぞみ	2	〒395-0813	毛賀366番地	24-4932
9	山崎 昌伸	会派のぞみ	2	〒395-0817	鼎東鼎292番地7	23-0204
10	熊谷 泰人	会派のぞみ	2	〒395-0075	白山通り3丁目391番地1	53-4150
11	湯澤 啓次	会派のぞみ	3	〒395-0001	座光寺2570番地1	24-6698
12	永井 一英	公明党	4	〒395-0077	丸山町2丁目6725番地14	23-4021
13	福沢 清	会派みらい	3	〒395-0029	二本松333番地1	22-5620
14	木下 容子	市民パワー	5	〒395-0063	羽場町1丁目5番地7	22-5973
15	後藤 荘一	日本共産党	5	〒395-0156	中村1221番地	25-7857
16	湊 猛	会派のぞみ	3	〒399-1311	南信濃和田1343番地1	0260-34-2248
17	新井 信一郎	会派のぞみ	4	〒395-0151	北方3330番地1	25-5181
18	清水 勇	会派のぞみ	4	〒399-2221	龍江2453番地1	27-2569
19	吉川 秋利	会派のぞみ	4	〒395-0807	鼎切石4375番地	24-8268
20	木下 克志	会派のぞみ	5	〒395-0803	鼎下山665番地	24-5645
21	村松 まり子	公明党	5	〒395-0814	八幡町489番地2	24-6884
22	井坪 隆	会派みらい	6	〒395-0004	上郷黒田1826番地	23-6421
23	原 和世	会派みらい	6	〒395-0244	山本4703番地1	25-1216

年齢別議員数

(令和元年5月31日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	2	4	3	11	3	23

当選回数別議員数

(令和元年5月31日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
人員	5	5	3	4	4	2	23

3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(令和元年5月14日改選)

議 長	湯澤 啓次	副 議 長	原 和世
-----	-------	-------	------

(2) 委員会

(令和元年5月15日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (8人)	◎山崎 昌伸 古川 仁	○吉川 秋利 永井 一英	岡田 倫英 福沢 清	福澤 克憲 新井信一郎
社会文教委員会 (7人)	◎村松まり子 木下 容子	○湊 猛 清水 勇	塚平 一成 原 和世	竹村 圭史
産業建設委員会 (7人)	◎熊谷 泰人 木下 徳康	○後藤 莊一 木下 克志	清水優一郎 井坪 隆	小林 真一
予算決算委員会 (22人)	◎原 和世	○村松まり子	ほか議長を除く全議員	
議会運営委員会 (8人)	◎福沢 清 吉川 秋利	○永井 一英 木下 克志	山崎 昌伸 村松まり子	熊谷 泰人 井坪 隆
リニア推進特別委員会 (8人)	◎井坪 隆 永井 一英	○新井信一郎 木下 容子	竹村 圭史 清水 勇	木下 徳康 吉川 秋利
広報広聴委員会 (8人)	◎竹村 圭史 古川 仁	○福澤 克憲 永井 一英	清水優一郎 新井信一郎	塚平 一成 井坪 隆
議会改革推進会議 (8人)	◎木下 徳康 山崎 昌伸	○岡田 倫英 福沢 清	清水優一郎 木下 容子	小林 真一 後藤 莊一

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(令和元年5月15日選任)

推 薦 基 準	任 期	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	4 年	清水 勇

(2) 南信州広域連合議会議員

(令和元年5月15日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3常任委員長(3) 会派按分(7)	4年(議員の任期) (2年で改選)	湯澤 啓次 原 和世 山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 竹村 圭史 木下 徳康 永井 一英 後藤 莊一 清水 勇 木下 克志 井坪 隆

3常任・・・総務、社会文教、産業建設

5 議会選出の各種委員等

(1) 附属機関等の委員名簿

(令和元年5月15日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	在職期間	村松まり子 湊 猛
都市計画審議会 (5人)	総務1・社文1 産建2・ リニア1	在職期間	山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 後藤 莊一 井坪 隆
国民保護協議会 (3人)	3常任委員長	在職期間	山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人

3常任・・・総務、社会文教、産業建設

(2) その他の団体の役員(地区出身議員のみの団体は除く)

(令和元年5月15日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
天竜川上流治水促進 期成同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
一般国道151号(飯田～豊 橋)改良促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
一般国道153号改良期成 同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
国道153号飯田南バイパス 整備促進期成同盟会	議長	在職期間	【監事】湯澤 啓次
長野県南部国道連絡会	議長	在職期間	湯澤 啓次
J R線活性化期成同盟会	議長	在職期間	【副会長】湯澤 啓次
リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 (7人)	正副議長 監査委員 3常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】湯澤 啓次 【理事】原 和世 【監事】清水 勇 山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 井坪 隆
国道152号整備促進 期成同盟会(2人)	議長 産建委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 熊谷 泰人

国道256号改良促進 期成同盟会（3人）	正副議長 産建委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人
国道418号整備促進 期成同盟会（4人）	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一
三遠南信自動車道飯喬道 路3工区建設促進期成同 盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【顧問】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】小林 眞一 清水 優一郎
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 （3人）	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】湯澤 啓次 【理事】原 和世 【監事】清水 勇
主要地方道飯田富山佐久 間線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【監事】湯澤 啓次 【理事】原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】小林 眞一 清水 優一郎
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷・橋北 ・橋南・羽場・丸山・ 東野・鼎・伊賀良	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】井坪 隆岡 田倫英 福澤 克憲 岡田福沢 清一英 木下 容子 永井山崎 昌伸 古川 仁 秋利 木下 克志 吉川 秋利 新井信一郎
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次 【監事】原 和世 【理事】熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】岡田 倫英 福澤 木下 福沢 清一 永井 山崎 昌伸 永井 一英
県道上飯田線改良促進期 成同盟会	議長 地区出身議員 座光寺	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次
都市計画道路羽場大瀬木 線改良促進連絡協議会	正副議長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野・鼎・ 伊賀良	在職期間 在任期間	【相談役】湯澤 啓次 原 和世 【地区】岡田 倫英 福澤 克憲 福沢 清一 熊谷 泰人 木下 容子 永井 山崎 昌伸 古川 仁 秋利 木下 克志 吉川 秋利 後藤 莊一 新井信一郎
広域幹線林道千遠線 開設期成同盟会（2人）	議長 産建委員長	在職期間	【委員】湯澤 啓次 熊谷 泰人
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員	在職期間	【委員】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 村松まり子 【地区】木下 徳康
伊那テクノバレー地域 センター（1人）	議長	在職期間	【地域評議員】湯澤 啓次

3 常任…総務、社会文教、産業建設

(3) 議員による任意の団体

名 称	基準	任期	氏 名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】湊 猛 【副会長】福沢 清 【幹 事】塚平 一成 小林 真一 福澤 克憲 後藤 莊一 【会 員】全市議会議員
スポーツ振興議員連盟	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】熊谷 泰人 【副会長】原 和世 【幹事長】古川 仁 【事務局長】岡田 倫英 【幹 事】小林 真一 木下 容子 【会 員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊 橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会 員】全市議会議員

6 各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
会 派 の ぞ み	木下 克志	13	会 派 み ら い	井坪 隆	3
公 明 党	村松まり子	3			
市 民 パ ワ ー	木下 容子	2	日 本 共 産 党	後藤 莊一	2

Ⅲ 市議会の活動

1 市議会の活動状況

(1) 市議会招集回数10か年比較表

区 分		年 次									
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	2	0	2	0	1	1	1	0	1	0
会期日数		112	102	105	101	101	93	102	98	100	99
本会議日数		22	17	18	17	19	18	18	17	19	17
議案件数		197	199	287	218	228	226	208	172	173	194

(2) 議会開会状況（平成30年1月から平成30年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回定例会	2月27日～ 3月22日	24	4
2	第2回定例会	5月31日～ 6月26日	27	4
3	第3回定例会	8月28日～ 9月21日	25	4
4	第4回定例会	11月26日～12月18日	23	5
計			99	17

(3) 議会審議状況（平成30年1月から平成30年12月まで）

区分		会別	第1回 定例会	第2回 定例会	第3回 定例会	第4回 定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		23	3	21	9	56
	条例		19	11	6	12	48
	その他		16	5	11	13	45
	計(A)		58	19	38	34	149
議員又は 委員会 提出議案	条例		0	0	0	0	0
	その他		0	1	2	6	9
	計(B)		0	1	2	6	9
報 告	専決処分		3	12	3	3	21
	その他			14	1	0	15
	計(C)		3	26	4	3	36
審議件数(A+B+C)			61	46	44	43	194
議決状況	原案可決（同意・認定・承認を含む）		58	29	42	40	169
	報告（議決を要しないもの）		3	17	2	3	25
	修正可決						0
	否 決						0
	継続審査						0
	審議未了						0

2 報酬その他

(1) 報酬

(平成31年4月1日時点)

役 職	報酬月額	役 職	給料月額
議 長	499,000 円	市 長	925,000 円
副議長	436,000 円	副市長	760,000 円
議 員	407,000 円	教育長	669,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

報酬額の改定推移

(単位：千円)

種 別	改定年月日									
	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議 長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副 議 長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議 員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

(2) 期末手当

6 月期支給額 報酬×1.45×167.5/100

12月期支給額 報酬×1.45×167.5/100

(3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

(4) 研修旅費

議 員 1 人 当 り 年 額	
常 任 委 員 会	実 費
議 会 運 営 委 員 会	実 費
海 外 研 修 視 察	所要額の 3 / 4 (交付金)

(5) 政務活動費

議員 1 人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額

(平成3年4月1日改正)

旅費の区分 職務の区分	車 賃		日 当	宿 泊 料		食卓料 (1夜につき)
	交通機関 のある場 合	交通機関 のない場 合(1キロメ ートルにつき)		県内	県外	
議員、教育委員、選挙管理委員、 公平委員、監査委員、農業委員、 選挙長、固定資産評価審査委員及 び固定資産評価員	実費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

3 定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回(4月、7月、10月及び1月(定例会終了の翌月)。このほか臨時号)

ウ 発行部数 各33,000部

エ 印刷 オフセット印刷(A4版 1回平均12ページ) 160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回(例年6月発行)

イ 発行部数 150部

4 市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回(次回定例会の招集日までに発行)

イ 発行部数 31部

ウ 印刷 オフセット印刷(A4版)

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

(3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

5 議会事務局の事務分掌

(1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

(2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

(3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

IV 飯田市の概要

1 平成31年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要

平成31年度 飯田市各会計予算の総額

会 計 名		予 算 額		比 較	
		31年度 (A)	30年度 (B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
一 般 会 計		46,350,000	45,860,000	490,000	1.1
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,952,500	9,165,000	△ 212,500	△ 2.3
	直診勘定	6,300	6,300	0	0.0
後期高齢者医療特別会計		1,404,900	1,365,500	39,400	2.9
介護保険特別会計		11,691,800	11,515,100	176,700	1.5
地方卸売市場事業特別会計		15,500	16,900	△ 1,400	△ 8.3
駐車場事業特別会計		70,500	70,500	0	0.0
墓地事業特別会計		16,900	16,300	600	3.7
介護老人保健施設事業特別会計		699,100	711,400	△ 12,300	△ 1.7
ケーブルテレビ放送事業特別会計		76,700	82,700	△ 6,000	△ 7.3
病院事業会計		15,523,000	15,309,900	213,100	1.4
水道事業会計		4,166,100	4,855,600	△ 689,500	△ 14.2
下水道事業会計		6,125,000	6,334,200	△ 209,200	△ 3.3
特別会計の計		48,748,300	49,449,400	△ 701,100	△ 1.4
計		95,098,300	95,309,400	△ 211,100	△ 0.2

(単位:千円、%)

主 内 容	
	一般
保険給付費 6,142,322 事業費納付金 2,557,739 総務費 135,563 保健事業費 73,958	国保
三穂診療所、上村歯科診療所	
後期高齢者医療広域連合納付金 1,368,175	後高
保険給付費 10,937,836 地域支援事業費 510,385	介護
卸売市場費 15,383	市場
市営駐車場の管理運営 64,863 基金積立金 5,537	駐車
霊園の管理運営 9,282 基金積立金 7,618	墓地
施設管理費 622,128 施設事業費 76,972	老施
竜東維持管理費 52,558 遠山郷維持管理費 22,263	ケテ
収益的收入 13,030,000 収益的支出 13,302,000 資本的收入 1,323,500 資本的支出 2,221,000	病院
収益的收入 2,232,300 収益的支出 1,961,600 資本的收入 1,238,700 資本的支出 2,204,500	水道
収益的收入 4,240,700 収益的支出 3,557,900 資本的收入 1,044,200 資本的支出 2,567,100	下水
	特会
	計

平成31(2019)年度 一般会計 歳入 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減	
	31年度(A)	30年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 市 税	13,316,000	13,081,000	28.7	235,000	1.8
2 地 方 譲 与 税	466,000	446,000	1.0	20,000	4.5
3 利 子 割 交 付 金	14,000	19,000	0.0	△ 5,000	△ 26.3
4 配 当 割 交 付 金	43,000	53,000	0.1	△ 10,000	△ 18.9
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	30,000	56,000	0.1	△ 26,000	△ 46.4
6 地 方 消 費 税 交 付 金	2,074,000	2,128,000	4.5	△ 54,000	△ 2.5
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	51,000	108,000	0.1	△ 57,000	△ 52.8
8 自 動 車 税 環 境 性 能 割 交 付 金	19,000	0	0.0	19,000	皆増
9 地 方 特 例 交 付 金	264,000	60,000	0.6	204,000	340.0
10 地 方 交 付 税	11,029,000	10,920,000	23.8	109,000	1.0
11 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	15,000	17,000	0.0	△ 2,000	△ 11.8
12 分 担 金 及 び 負 担 金	612,272	802,764	1.3	△ 190,492	△ 23.7
13 使 用 料 及 び 手 数 料	552,571	537,636	1.2	14,935	2.8
14 国 庫 支 出 金	6,227,832	5,568,022	13.4	659,810	11.8
15 県 支 出 金	2,885,552	2,878,624	6.2	6,928	0.2
16 財 産 収 入	56,330	34,596	0.1	21,734	62.8
17 寄 附 金	158,050	164,279	0.4	△ 6,229	△ 3.8
18 繰 入 金	1,201,523	1,241,312	2.6	△ 39,789	△ 3.2
19 繰 越 金	600,000	600,000	1.3	0	0.0
20 諸 収 入	2,476,170	2,701,767	5.4	△ 225,597	△ 8.3
21 市 債	4,258,700	4,443,000	9.2	△ 184,300	△ 4.1
合 計	46,350,000	45,860,000	100.0	490,000	1.1

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増減(A)-(B)の主な内容	
市民税 6,011,000 (個人 4,846,000 法人 1,165,000) 固定資産税 5,640,000 軽自動車税 366,000 市たばこ税 614,000 入湯税 3,000 都市計画税 682,000	市税は現年課税分で比較 個人 42,000 法人 114,000 固定資産税 58,000 軽自動車税 16,000 都市計画税 7,000	市税
地方揮発油 125,000 自動車重量 319,000 森林環境 22,000	森林環境 22,000 揮発油 2,000 重量 △4,000	地譲
	利子割交付金 △5,000	利子
	配当割交付金 △10,000	配当
	株式等譲渡所得割交付金 △26,000	株式
消費税率8%に引上げによる増収分833,530千円は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳:社会福祉 526,428 社会保険 279,869 保健衛生 27,233)	地方消費税交付金 △54,000	消費
	自動車取得税交付金 △57,000	自取
	環境性能割交付金 19,000	環性
地方特例交付金 80,000 子ども・子育て支援臨時交付金184,000	子ども・子育て支援臨時 184,000 地方特例 20,000	地特
普通交付税 10,029,000 特別交付税 1,000,000	普通交付税 109,000	地交
	交通安全対策特別交付金 △2,000	交通
民生費負担金 538,021 (保育料等 447,635 老人措置 79,239) 農林費分担金 50,060 (非補助土地改良 50,000) 総務費負担金 21,673 (戸籍システム共同利用 16,529)	民間保育所保護者負担金 △84,256 公立保育所保護者負担金 △80,971 航空写真撮影及び地図データ作成 △25,092	分負
住宅使用料 151,736 ごみ処理手数料 145,258 休日夜間急患診療所使用料 40,323 道路河川占用料 37,500 文化会館使用料 20,100 斎苑使用料 18,650 戸籍手数料 18,027 地域振興住宅使用料 15,681 住民票手数料 12,825 建築確認手数料 11,000 印鑑等諸証明手数料 9,750 公園使用料 9,200 地区公民館使用料 9,042	公園使用料 8,800 ごみ処理手数料 7,431 住宅使用料 2,079 徴税諸証明手数料 1,694 最終処分場搬入ごみ処理手数料 1,449 休日夜間急患診療所使用料 △4,443 企業人材確保住宅使用料 △1,210	使手
【負担金】 民生費 4,248,966 (障がい児・者 1,174,765 児童手当 1,172,161 民間保育所 1,110,320 生活保護 504,721 児童扶養 182,148) 衛生費 63,000 (保険基盤安定) 災害復旧費 85,450 (公共土木施設災害)	民間保育所負担金 194,037 社会資本整備総合交付金 193,150 ICアクセス道路整備事業補助金 88,000 公共土木施設災害復旧事業負担金 85,450 障害者自立支援給付費負担金 82,616 民間保育所等整備交付金 64,889 児童扶養手当給付負担金 38,123 国宝重要文化財等保存・活用事業補助金 37,162 防災・安全交付金 26,400 延長保育促進事業補助金 25,034 一時預かり事業補助金 19,800 文化財保護補助金 △123,906 児童手当負担金 △24,052 道整備交付金 △22,250	国庫
【補助金】 総務費 147,668 (リニア 124,861 社会保険・税番号制度 22,307) 民生費 381,400 (民間保育所整備 210,735 子ども・子育て 62,193) 衛生費 28,507 (環境保全 12,786 母子保健 6,944 成人保健 6,130) 商工費 38,162 (文化財保護) 土木費 980,987 (道路 847,750 橋りょう 110,000 公園 15,000) 消防費 11,874 (防災対策) 教育費 224,065 (文化財保護 193,720 小・中学校 23,045)	民間保育所負担金 94,185 障害者自立支援給付費負担金 41,307 参議院議員選挙委託金 37,424 県議会議員選挙委託金 17,176 子育て支援対策臨時特例交付金 17,802 勤労者福祉施設改修等補助金 9,361 農業者人材力強化総合支援事業補助金 8,250 老人福祉施設等整備事業補助金 △115,400 知事選挙委託金 △34,850 延長保育促進事業補助金 △22,825 一時預かり事業補助金 △19,009 後期高齢者医療保険基盤安定事業負担金 △12,767	県費
【負担金】 民生費 1,623,601 (民間保育所 578,855 障がい児・者 572,513 児童手当 255,749 後期高齢者医療 193,635) 衛生費 218,175 (保険基盤安定)		
【補助金】 総務費 43,770 (合併特例交付金 38,400) 民生費 404,517 (医療費給付 202,992 民間保育所 95,498 地域子育て支援 63,735 障害者福祉 31,682) 農林費 235,227 (林業振興 121,835 農政対策 66,147 農業振興 31,797 国土調査 8,850 農業委員会 6,598)		
【委託費】 総務費 250,784 (県民税 167,730 参議院議員選挙 37,424)		
基金運用収入 33,817 財産貸付収入 16,606 不動産売却収入 5,501	基金利子 26,774、貸付料 △3,825	財産
ふるさと寄附金 150,000 工業振興寄附金 4,050 奨学資金 3,000	工業振興寄附金1,080 文化会館寄附金 △4,309	寄附
財調 400,000 減債 350,000 ふるさと 6,000 リニア 354,231 過疎 37,289 社会福祉施設 23,969 地域雇用 23,934 財産区議会議員選挙 3,428 財産区事務 2,672	財政調整 △100,000 減債 △10,000 ふるさと △10,691 リニア 119,402 過疎 12,700 庁舎建設 △46,869 社会福祉施設 △11,273	繰入
		繰越
貸付金元利収入 1,636,215 (商工制度資金 1,400,000 生活資金 170,000) 受託事業収入 198,401 (中央新幹線用地取得事務 85,270 埋蔵文化財調査 50,734 福祉企業センター 39,775) 雑入 638,354	スポーツ振興くじ助成金 77,906 産業振興と人材育成の拠点整備事業受託△179,000 道路橋りょう測量設計業務受託 △154,412	諸収
合併特例債 109,600 (観光 73,600 社会教育施設 36,000) 過疎対策事業債 120,000 (公共交通体系 37,900 林道 38,000 道路 21,900 教育 12,200 老人福祉5,100 自治振興 4,900) その他 4,029,100 土木 1,065,000 消防 358,500 総務 347,300 教育 252,600 民生 242,200 衛生 185,700 農林 88,400 労働 77,200 商工 39,900 災害復旧 38,300 臨時財政対策債 1,334,000	公共事業 271,800 緊急防災・減災 226,100 一般単独 219,100 社会福祉施設整備 89,200 公共施設等適正管理推進事業 87,500 一般補助施設整備等 52,400 過年発生補助災害復旧事業 38,300 合併特例 △762,600 臨時財政対策債 △249,000 上下水道事業 △87,700 介護サービス △41,400	市債

平成31(2019)年度 一般会計 目的別歳出 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の構成比	増 減	
	31年度 (A)	30年度 (B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 議 会 費	277,626	276,135	0.6	1,491	0.5
2 総 務 費	5,131,460	4,507,200	11.1	624,260	13.9
3 民 生 費	15,624,709	15,187,806	33.7	436,903	2.9
4 衛 生 費	4,574,005	4,632,255	9.9	△ 58,250	△ 1.3
5 労 働 費	352,510	249,114	0.8	103,396	41.5
6 農 林 水 産 業 費	1,180,022	1,191,592	2.5	△ 11,570	△ 1.0
7 商 工 費	2,448,119	2,546,191	5.3	△ 98,072	△ 3.9
8 土 木 費	5,624,486	5,463,163	12.1	161,323	3.0
9 消 防 費	1,642,301	1,462,696	3.5	179,605	12.3
10 教 育 費	4,221,863	5,170,017	9.1	△ 948,154	△ 18.3
11 災 害 復 旧 費	132,412	4,300	0.3	128,112	2,979.3
12 公 債 費	5,027,006	5,129,431	10.8	△ 102,425	△ 2.0
13 諸 支 出 金	73,481	100	0.2	73,381	73,381.0
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合 計	46,350,000	45,860,000	100.0	490,000	1.1

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 277,626	議会一般経費 2,142 議員人件費 △784	議会
リニア代替地整備事業 727,460 総務一般管理費 149,396 住民情報システム管理費 138,640 市民バス等運行業務 134,295 リニア駅周辺整備事業 134,190 南信州広域連合負担金(一般会計) 114,504 地域自治支援事業 110,066 課税事務委託費 109,883 自治振興センター管理費 92,010 ふるさと飯田応援隊募集事業 84,704 リニア用地取得事業 72,350 リニア推進事業 55,410 賦課費 45,369 情報管理費 44,686 中山間地域振興事業 42,797 車両管理費 39,700	リニア代替地整備事業 589,180 リニア用地取得事業 65,629 リニア推進事業 45,894 参議院議員選挙費 37,563 市民バス等運行業務 19,816 県議会議員選挙費 17,176 リニア駅周辺整備事業 △117,517 リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金積立金 △94,962 中山間地域振興事業 △82,387 知事選挙費 △34,850 大学とのネットワーク構築事業 △24,843 地域振興住宅整備事業 △18,100	総務
民間保育所等運営費 2,764,870 児童手当費 1,683,660 介護保険特別会計繰出金 1,655,927 総合支援介護給付事業 1,130,803 後期高齢者医療関係一般経費 1,102,076 総合支援訓練等給付事業 757,623 生活保護措置費 672,962 児童扶養手当費 546,446 民間保育所等施設整備事業 500,179 養護老人ホーム措置事業 348,164 障害児通所支援費 340,219 後期高齢者医療特別会計繰出金 291,906 障害者医療費給付事業 274,542 子ども医療費給付事業 232,736	民間保育所等運営費 259,075 総合支援介護給付事業 123,879 児童扶養手当費 114,370 老人福祉一般経費 70,662 民間保育所等施設整備事業 54,974 総合支援訓練等給付事業 49,319 児童養護施設・乳児院整備事業 36,931 特別養護老人ホーム飯田荘建設事業 △222,042 特別養護老人ホーム運営支援事業 △46,225 児童手当費 △34,355	民生
病院事業会計負担金 1,404,172 水道費 559,055 国民健康保険特別会計繰出金 558,595 ごみ収集処理費 297,186 予防接種事業(子ども) 192,586 南信州広域連合負担金(焼却場) 166,684 南信州広域連合負担金(竜水園) 125,718 妊婦健診事業 104,460 がん検診事業 72,132 一般廃棄物最終処分場管理費 68,145 予防接種事業(高齢者) 66,920 容器包装リサイクル事業 51,355	南信州広域連合負担金(焼却場) 49,325 病院事業会計負担金 24,157 風しん対策事業 15,250 予防接種事業(子ども) 10,401 産婦健診事業 8,260 南信州広域連合負担金(竜水園) 7,888 一般廃棄物最終処分場管理費 6,654 水道費 △162,613 国民健康保険特別会計繰出金 △22,146 妊婦健診事業 △11,320 予防接種事業(高齢者) △5,073	衛生
勤労者協調融資事業 170,000 労働諸費 94,816 勤労者福祉センター管理費 28,552	労働諸費 84,910 勤労者福祉センター管理費 9,479 人材誘導事業費 8,466	労働
林道改良事業(補助) 165,228 市単土地改良事業 104,403 農業基盤整備資金償還補助事業 85,619 意欲ある農業者支援事業 52,273 非補助土地改良事業 50,000 農作物鳥獣被害対策事業 39,425 中山間地域等直接支払事業 34,598 林道舗装事業 32,456 林道開設事業 30,988 新規就農者支援事業 26,187 農業委員会活動推進事業 23,372	意欲ある農業者支援事業 19,446 林道開設事業 16,327 新規就農者支援事業 10,426 分収造林事業費 3,653 農業基盤整備資金償還補助事業 △15,484 国土保全特別対策事業 △10,500 農作物鳥獣被害対策事業 △9,273 間伐促進対策事業 △6,465 林道改良事業(補助) △5,285	農林
中小企業金融対策事業 1,500,000 名勝天龍峡整備事業 82,163 地域産業等振興事業 56,230 産業用地整備事業 56,293 企業立地促進事業補助金 55,000 天龍峡活性化事業 53,437 南信濃観光施設管理費 37,318 産業振興と人材育成の拠点整備事業 28,111	名勝天龍峡整備事業 73,130 天龍峡活性化事業 35,285 地域産業等振興事業 12,248 産業振興と人材育成の拠点整備事業 △200,078 人形とけい塔管理事業 △38,276 産業用地整備事業 △17,377	商工
下水道費 1,858,000 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 741,000 改築補助事業 400,000 道路補修事業 223,329 道路舗装補修事業 212,994 橋りょう長寿命化修繕事業 203,712 防災・安全交付金事業(道路整備) 193,000 防災・安全交付金事業(通学路安全対策) 150,000 除雪費 104,695 道整備交付金事業 96,500 市道改良事業 89,038	改築補助事業 160,000 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 145,588 防災・安全交付金事業(通学路安全対策) 101,000 橋りょう耐震整備事業 40,000 下水道費 △75,900 社会資本整備総合交付金事業(市街地整備) △54,700 公営住宅整備事業(補助) △44,624 道整備交付金事業 △44,500	土木
南信州広域連合負担金(消防) 981,903 防災対策推進事業 299,144 消防団運営事業 180,372 消防体制強化整備事業(単独) 72,571	防災対策推進事業 188,934 消防体制強化整備事業(単独) 19,719 消防団詰所整備事業 △26,000 災害対策一般経費 △3,650	消防
恒川遺跡群保存活用事業(補助) 246,182 調理業務委託費 194,388 学校管理一般経費(小・中) 172,283 学校教育振興事業(小・中) 158,168 体育施設管理費 151,209 情報通信技術活用教育推進事業(小・中) 150,109 学校施設大規模改修事業 140,470 公民館管理・運営費 132,096 恒川遺跡群保存活用事業(単独) 120,957 学校教育補助員等雇用事業(小・中) 117,052	恒川遺跡群保存活用事業(単独) 110,505 体育施設改修費 106,740 公民館改修事業 44,159 学校管理一般経費(小・中) 31,071 公民館等耐震化整備事業 △908,169 恒川遺跡群保存活用事業(補助) △152,005 埋蔵文化財調査事業(その他) △66,924 いっぴだ人形劇フェスタ開催事業 △56,000	教育
土木施設補助災害復旧事業 128,112 土木施設単独災害復旧事業 2,000 林道単独災害復旧事業 1,300	土木施設補助災害復旧事業 128,112	災害
長期債元金 4,801,490 長期債利子 223,516 一時借入金利子 2,000	元金 △80,954 利子 △21,471	公債
新規積立金 52,050(ふるさと基金 30,000 森林経営管理基金 22,000 学術研究振興基金 50)	新規積立金 51,950	諸支
予備費 40,000		予備

平成31年度 一般会計 性質別歳出 (主な増減内訳)

	31年度予算額		30年度予算額		増減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人件費	6,073,915	13.1	5,868,281	12.8	205,634	3.5
2 扶助費	9,244,154	19.9	8,702,012	18.9	542,142	6.2
3 公債費	5,027,006	10.8	5,129,431	11.2	△ 102,425	△ 2.0
小計	20,345,075	43.8	19,699,724	42.9	645,351	3.3
4 物件費	5,868,636	12.7	6,065,874	13.2	△ 197,238	△ 3.3
5 維持補修費	723,927	1.6	673,630	1.5	50,297	7.5
6 補助費等	6,608,262	14.3	6,589,130	14.4	19,132	0.3
7 積立金	78,519	0.2	100,100	0.2	△ 21,581	△ 21.6
8 投資・出資金	760,620	1.6	926,010	2.0	△ 165,390	△ 17.9
9 貸付金	1,644,195	3.5	1,634,435	3.6	9,760	0.6
10 繰出金	3,757,019	8.1	3,786,770	8.3	△ 29,751	△ 0.8
11 投資的経費	6,523,747	14.1	6,344,327	13.8	179,420	2.8
補助	2,877,195	6.2	2,713,013	5.9	164,182	6.1
単独	3,646,552	7.9	3,631,314	7.9	15,238	0.4
普通建設費	6,391,335	13.8	6,340,027	13.8	51,308	0.8
補助	2,749,083	5.9	2,713,013	5.9	36,070	1.3
単独	3,642,252	7.9	3,627,014	7.9	15,238	0.4
災害復旧費	132,412	0.3	4,300	0.0	128,112	2,979.3
補助	128,112	0.3	0	0.0	128,112	0.0
単独	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
12 予備費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合計	46,350,000	100.0	45,860,000	100.0	490,000	1.1

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

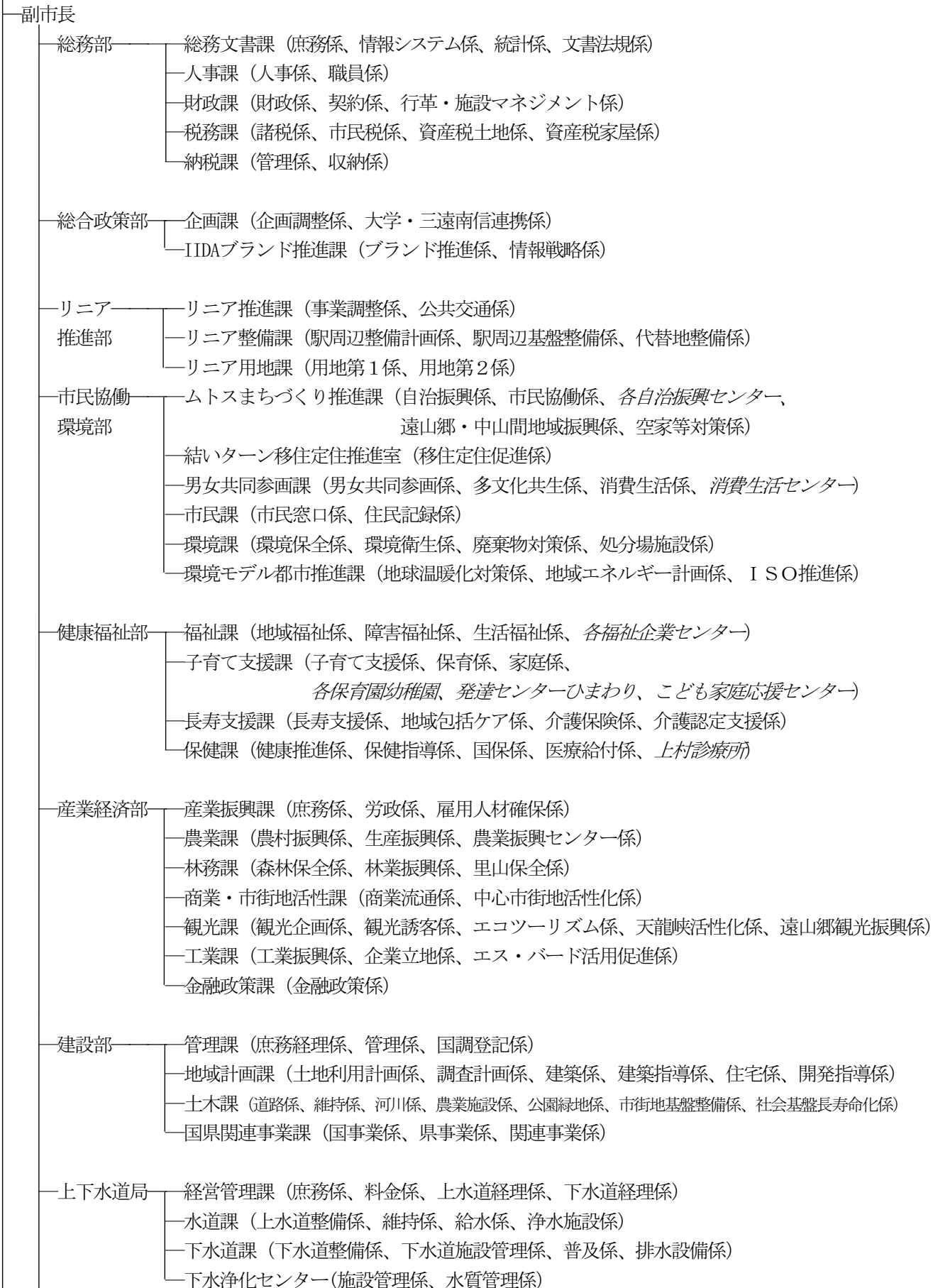
増減の主な内容		
職員給 151,612 市町村共済負担金 37,791 委員等報酬 12,469 退職手当 3,243		人件
民間保育所等運営費 259,075 児童扶養手当費 114,370 総合支援介護給付事業 123,879 総合支援訓練等給付事業 49,319 障害児通所支援費 25,592 児童手当費 △34,355		扶助
元金 △80,954 利子 △21,471		公債
小学校管理一般経費 26,636 小中学校施設管理費 17,239 風しん対策事業 15,250 保育所保育費 14,843 リニア駅周辺整備事業 △137,987 公立保育所保育補助員雇用事業 △13,387 子ども医療費給付事業 △11,689 土地利用基本方針運用事業 △10,276		物件
防災・安全交付金事業(道路整備) 15,000 道路舗装補修事業 12,034 保育所管理費 12,066 橋りょう維持補修事業 11,370 道路維持管理費 △3,733 りんご並木管理費 △1,500		維持
病院事業会計負担金 71,182 南信州広域連合負担金(焼却場) 49,325 児童養護施設・乳児院整備事業 36,931 地域産業等振興事業 12,248 市民バス等運行事業 20,994 南信州広域連合負担金(一般会計) 12,772 下水道費 △75,900 いいだ人形劇フェスタ開催事業 △56,000 水道費 △44,248		補助
ふるさと基金 30,000 基金利子 26,469 森林経営管理基金 22,000 リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金 △100,000 学術研究振興基金 △50		積立
水道費 △118,365 病院事業会計負担金 △47,025		投資
意欲ある農業者支援事業 10,000		貸付
後期高齢者医療関係一般経費 18,619 介護保険特別会計 18,144 国民健康保険特別会計 △22,146 介護老人保健施設事業特別会計 △18,011 後期高齢者医療特別会計 △13,790 ケーブルテレビ放送事業特別会計 △11,007 地方卸売市場事業特別会計 △1,560		繰出
		投資
		補助
		単独
		普建
改築補助事業 160,000 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 145,588 防災・安全交付金事業(通学路) 101,000 名勝天龍峡整備事業 71,088 学校校舎外壁改修事業 58,850 民間保育所等施設整備 57,574 恒川遺跡群保存活用事業(補助) △152,005 防災・安全交付金事業(道路整備) △56,870 道整備交付金事業 △ 44,500 社会資本整備総合交付金事業(市街地整備) △74,700 橋りょう長寿命化修繕事業 △15,684		補助
リニア代替地整備事業 589,180 リニア用地取得事業 65,670 リニア推進事業 37,322 リニア駅周辺整備事業 21,718 防災行政無線デジタル化整備 180,060 恒川遺跡群保存活用事業(単独) 110,505 体育施設改修費 105,740 労働諸費 85,800 老人福祉一般経費 63,946 公民館改修事業 44,159 橋りょう耐震整備事業 40,000 公民館等耐震化整備事業 △908,169 飯田荘建設 △222,042 産業振興と人材育成の拠点整備 △196,031		単独
		災害
土木施設補助災害復旧事業 128,112		補助
土木施設単独災害復旧事業 2,000 林道単独災害復旧事業 1,300 農業施設等単独災害復旧事業 1,000		単独
		予備

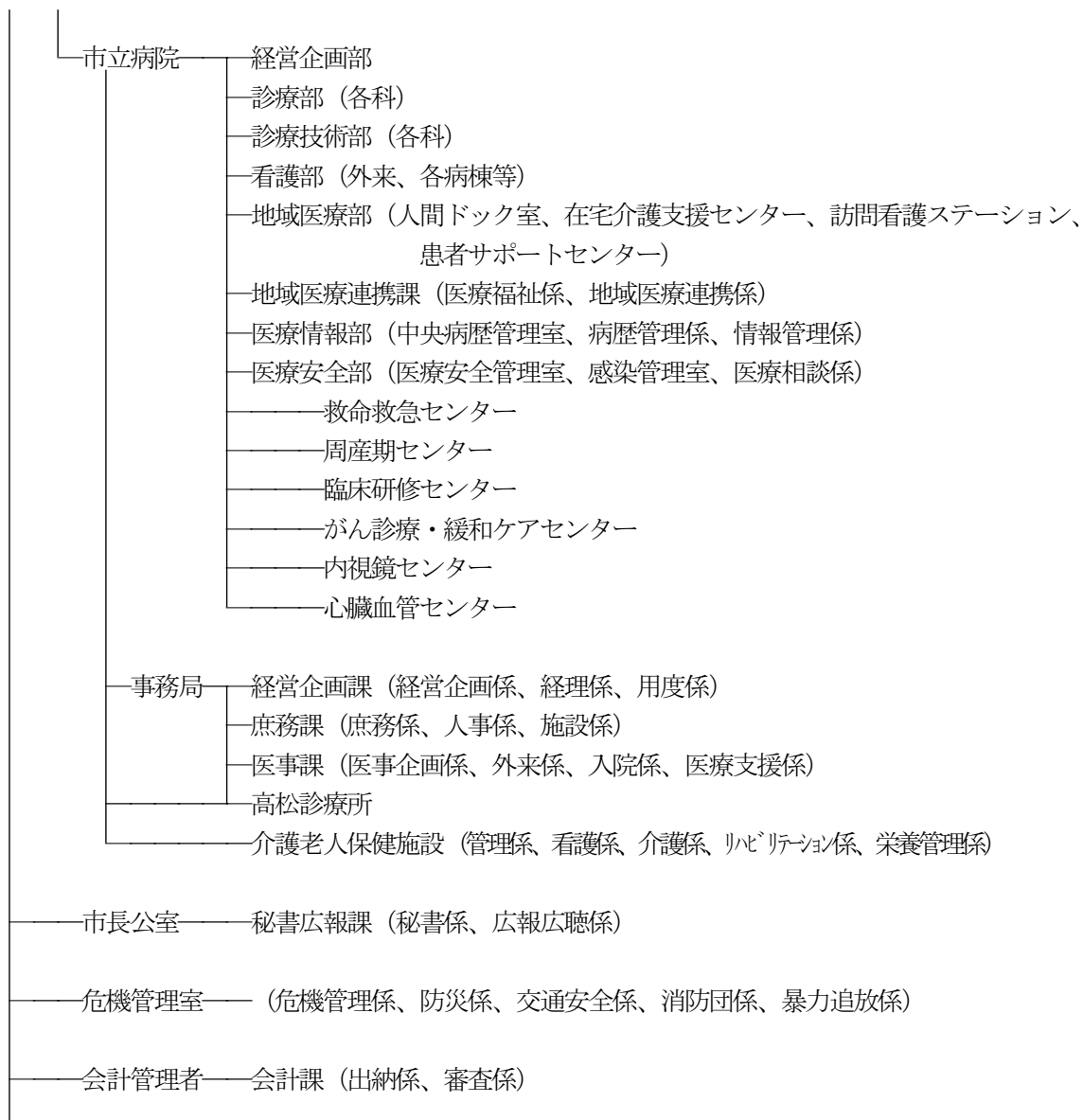
2 飯田市行政組織機構図 (H31. 4. 1)

部等 課等 (係・出先機関:正規職員の配置のあるもの)

○市長事務部局

市長



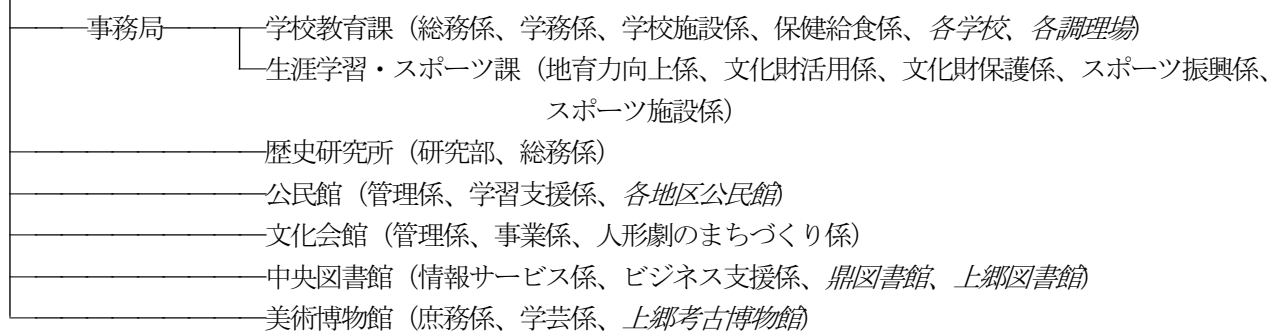


○市議会、行政委員会

市議会事務局 (庶務係、議事係、調査係)

教育委員会

教育長



選挙管理委員会 事務局 (選挙係、啓発係)

公平委員会 (事務職員)

監査委員 事務局 (監査係)

農業委員会 事務局 (農地係、振興係)

固定資産評価審査委員会 (書記)

3 職員の定数

(平成31年4月1日現在)

区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
市長の事務部局の職員	755	689
議会の事務部局の職員	9	6
教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	127
選挙管理委員会の事務部局の職員	5	3
公平委員会の事務部局の職員	2	0
	(市長部局職員兼務2)	
監査委員の事務部局の職員	4	3
農業委員会の事務部局の職員	16	5
	(市長部局職員兼務8)	
固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2	0
	(市長部局職員兼務2)	
病院事業の職員	750	702
水道事業の職員	32	20
小 計	1,725	1,555
市長部局付派遣職員		
(財)南信州・飯田産業センター		3
(社福)飯田市社会福祉協議会		1
飯田市土地開発公社		-
長野県後期高齢者医療広域連合		1
長野県地方税滞納整理機構		-
飯田市職員労働組合専従		2
小 計		7
派遣職員(自治法派遣)		
南信州広域連合 事務局		5
〃 飯田広域消防		1
〃 飯田環境センター		1
小 計		7
合 計		1,569

【 資 料 編 】

V 市議会のあゆみ

1 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期満了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期満了一般選挙
昭和60年4月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期満了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期満了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期満了一般選挙
平成25年4月21日	任期満了一般選挙
平成29年4月16日	任期満了一般選挙

2 歴代市議会議員

(1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
5代	林 昌平	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
		昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
11代	今村 八束	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
		平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
12代	小林 利一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
		平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
13代	西尾 喜好	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
14代	岩崎 和男	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
15代	熊谷 富夫	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
16代	上澤 義一	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
17代	中島武津雄	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
18代	上澤 義一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
19代	林 幸次	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
20代	木下 克志	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
21代	清水 勇	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
22代	湯澤 啓次	令和元. 5. 14	

(2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
30代	永井 一英	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
31代	原 和世	令和元. 5. 14	

(3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	湊 猛	木下 容子	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	山崎 昌伸	吉川 秋利	令和元. 5. 15	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	梶田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 荘一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	福沢 清	山崎 昌伸	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	村松まり子	湊 猛	令和元. 5. 15	

※議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
34代	〃	湯澤 啓次	熊谷 泰人	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
35代	〃	熊谷 泰人	後藤 莊一	令和元. 5. 15	

※議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(6) 歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	予算決算委員会	原 和世	村松まり子	令和元. 5. 15	

※R1.5.14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と位置づけ実施

(7) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25.4.27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の3常任委員会へ移管

(8) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
36代	〃	村松まり子	吉川 秋利	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
37代	〃	福沢 清	永井 一英	令和元. 5. 15	

(9) 歴代監査委員 (議会選出)

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	平成29. 4. 27
29代	木下 克志	平成29. 5. 10	令和元. 5. 13
30代	清水 勇	令和元. 5. 15	

(10) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31
24代	吉川 昌彦	平成29. 4. 1	

(11)歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日まで 8選挙区 定数36）

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日まで 定数3）

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日まで9選挙区 定数28）

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5）

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日まで 定数1）

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日まで 定数1）

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日まで 全市1選挙区 定数36）

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榊田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省

前島 成光 熊谷 武志 齊藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	齊藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
齊藤 為良	新井 安男	市村 保人	齊藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	齊藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
齊藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友畝	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日

まで 定数31)

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

へ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

メ 平成29年4月16日執行（任期満了一般選挙 任期は平成29年4月28日から平成33年4月27日
まで 定数23） ^{*}
（平成33年は2021年、令和3年）

清水優一郎	岡田 倫英	塚平 一成	竹村 圭史	小林 真一	福澤 克憲
古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人	湯澤 啓次	永井 一英
福沢 清	木下 容子	後藤 荘一	湊 猛	新井信一郎	清水 勇
吉川 秋利	木下 克志	村松まり子	井坪 隆	原 和世	

3 1年間の記録

(1) 付議事件及び議決結果一覧表

① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第1号	監査委員の選任について	30.2.27	30.2.27	同意
議案第2号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	30.2.27	30.2.27	同意
議案第3号	飯田市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第4号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第5号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第6号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第7号	飯田市域学連携交流施設条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第8号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第9号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第10号	廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第11号	飯田市児童発達支援センター条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第12号	飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第13号	飯田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例及び飯田市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第14号	飯田市指定居宅介護支援の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第15号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第16号	飯田市国民健康保険条例及び飯田市国民健康保険事業基金条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第17号	飯田市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第18号	飯田市天龍峡百年再生広場条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第19号	飯田市建築協定条例等の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第20号	飯田市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第21号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	30.2.27	30.3.22	可決
議案第22号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市保健休養施設）	30.2.27	30.3.22	可決
議案第23号	公の施設の指定管理者の指定の期間の変更について（飯田市南信濃観光施設等）	30.2.27	30.3.22	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第24号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃観光施設等）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第25号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市天龍峡温泉交流館）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第26号	工事請負契約の一部変更について（「産業振興の拠点」整備事業第Ⅱ期建築工事）	30. 2. 27	30. 2. 27	可決
議案第27号	工事請負契約の締結について（「産業振興の拠点」整備事業第Ⅱ期電気設備工事）	30. 2. 27	30. 2. 27	可決
議案第28号	市道路線の認定について	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第29号	市道路線の変更について	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第30号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市営市民プール及び飯田運動公園プール）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第31号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市総合運動場）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第32号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田勤労者体育センター）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第33号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市勤労青少年ホーム）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第34号	平成29年度飯田市一般会計補正予算（第8号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第35号	平成29年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第36号	平成29年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第37号	平成29年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第38号	平成29年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第1号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第39号	平成29年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第40号	平成29年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第3号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第41号	平成29年度飯田市病院事業会計補正予算（第2号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第42号	平成29年度飯田市下水道事業会計補正予算（第4号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第43号	平成29年度飯田市各財産区会計補正予算（第2号）案	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第44号	平成30年度飯田市一般会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第45号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第46号	平成30年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第47号	平成30年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第48号	平成30年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第49号	平成30年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第50号	平成30年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第51号	平成30年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第52号	平成30年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第53号	平成30年度飯田市病院事業会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第54号	平成30年度飯田市水道事業会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第55号	平成30年度飯田市下水道事業会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第56号	平成30年度飯田市各財産区会計予算（案）	30. 2. 27	30. 3. 22	可決
議案第57号	損害賠償の額を定めることについて	30. 3. 8	30. 3. 22	可決
議案第58号	平成30年度航空写真撮影及び写真地図作成に関する事務の受託について	30. 3. 22	30. 3. 22	可決
議案第59号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	30. 5. 31	30. 5. 31	同意
議案第60号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	30. 5. 31	30. 5. 31	同意
議案第61号	飯田市鼎財産区管理委員の選任について	30. 5. 31	30. 5. 31	同意
議案第62号	飯田市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第63号	飯田市特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第64号	飯田市税条例等の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第65号	飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第66号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第67号	飯田市子育て短期支援事業の実施に係る分担金の徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第68号	飯田市介護予防拠点施設条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第69号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第70号	飯田市休日夜間急患診療所条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第71号	飯田市モーテル類似施設建築規制条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第72号	飯田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第73号	和解をすることについて	30. 5. 31	30. 6. 26	可決
議案第74号	工事請負契約の一部変更について（公民館等耐震化整備事業上郷公民館本体建築工事）	30. 5. 31	30. 6. 26	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第75号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第1号）案	30.5.31	30.5.31	可決
議案第76号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案	30.5.31	30.6.26	可決
議案第77号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）案	30.5.31	30.6.26	可決
議案第78号	教育委員会の委員の任命について	30.8.28	30.8.28	同意
議案第79号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	30.8.28	30.8.28	同意
議案第80号	飯田市野底財産区管理委員の選任について	30.8.28	30.8.28	同意
議案第81号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第82号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第83号	飯田市下久堅ふれあい交流館条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第84号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第85号	飯田市特別養護老人ホーム条例の一部を改正する条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第86号	飯田市指定介護予防支援等の事業に係る人員、運営及び介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第87号	土地の取得について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第88号	損害賠償の額を定めることについて	30.8.28	30.9.21	可決
議案第89号	損害賠償の額を定めることについて	30.8.28	30.9.21	可決
議案第90号	平成29年度飯田市水道事業剰余金の処分について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第91号	平成29年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	30.8.28	30.9.21	可決
議案第92号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第5号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第93号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第94号	平成30年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第95号	平成30年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第96号	平成30年度飯田市水道事業会計補正予算（第1号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第97号	平成30年度飯田市下水道事業会計補正予算（第1号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第98号	平成30年度飯田市各財産区会計補正予算（第1号）案	30.8.28	30.9.21	可決
議案第99号	平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	30.8.28	30.9.21	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第100号	平成29年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第101号	平成29年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第102号	平成29年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第103号	平成29年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第104号	平成29年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第105号	平成29年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第106号	平成29年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第107号	平成29年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第108号	平成29年度飯田市病院事業決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第109号	平成29年度飯田市水道事業決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第110号	平成29年度飯田市下水道事業決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第111号	平成29年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	30. 8. 28	30. 9. 21	認定
議案第112号	工事請負契約の一部変更について（特別養護老人ホーム飯田荘建設事業建築工事）	30. 9. 6	30. 9. 21	可決
議案第113号	工事請負契約の一部変更について（特別養護老人ホーム飯田荘建設事業機械設備工事）	30. 9. 6	30. 9. 21	可決
議案第114号	工事請負契約の一部変更について（「産業振興の拠点」整備事業第Ⅲ期建築工事）	30. 9. 6	30. 9. 21	可決
議案第115号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	30. 9. 21	30. 9. 21	可決
議案第116号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第117号	飯田市中心部地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第118号	廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第119号	飯田市児童発達支援センター条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第120号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第121号	飯田市保健センター設置条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第122号	飯田市工業技術研修施設条例を廃止する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第123号	飯田市技術上の監督業務を行わせる水道の布設工事等の基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第124号	飯田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第125号	飯田市公民館条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第126号	飯田市長の選挙におけるビラの作成の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第127号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市下久堅ふれあい交流館）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第128号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市福祉会館）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第129号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃福祉研修センター）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第130号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃障害者等活動支援センター）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第131号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第132号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃高齢者共同住宅）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第133号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市介護予防拠点施設）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第134号	損害賠償の額を定めることについて	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第135号	工事請負契約の締結について（防災行政無線デジタル化整備工事）	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第136号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	30. 11. 26	30. 11. 26	可決
議案第137号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第8号）案	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第138号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第139号	平成30年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第140号	平成30年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第141号	平成30年度飯田市病院事業会計補正予算（第1号）案	30. 11. 26	30. 12. 18	可決
議案第142号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	30. 12. 7	30. 12. 18	可決
議案第143号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第9号）案	30. 12. 7	30. 12. 18	可決
議案第144号	平成30年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第2号）案	30. 12. 7	30. 12. 18	可決
議案第145号	平成30年度飯田市病院事業会計補正予算（第2号）案	30. 12. 7	30. 12. 18	可決
議案第146号	公の施設の指定管理者の指定の期間の変更について（飯田市上村若者センター等）	30. 12. 18	30. 12. 18	可決
議案第147号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村若者センター等）	30. 12. 18	30. 12. 18	可決
議案第148号	公の施設の指定管理者の指定の期間の変更について（飯田市上村山村文化資源保存伝習施設）	30. 12. 18	30. 12. 18	可決
議案第149号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村山村文化資源保存伝習施設）	30. 12. 18	30. 12. 18	可決

② 議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議会議案 第1号	主要農作物種子法廃止に関し、万全の対応を求める意見書の提出について	30.6.26	30.6.26	可決
議会議案 第2号	小中学校のエアコン設置に伴う財源確保を求める意見書の提出について	30.9.21	30.9.21	可決
議会議案 第3号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	30.9.21	30.9.21	可決
議会議案 第4号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	30.12.18	30.12.18	可決
議会議案 第5号	小中学校の空調設備設置に伴う財源確保を求める意見書の提出について	30.12.18	30.12.18	可決
議会議案 第6号	義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	30.12.18	30.12.18	可決
議会議案 第7号	国の責任による35人学級の推進、複式学級の学級定員の引き下げ及び教育予算の増額を求める意見書の提出について	30.12.18	30.12.18	可決
議会議案 第8号	複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書の提出について	30.12.18	30.12.18	可決
議会議案 第9号	へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書の提出について	30.12.18	30.12.18	可決

③ 報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.2.27		
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.2.27		
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.2.27		
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について）	30.5.31	30.5.31	承認
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	30.5.31	30.5.31	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市一般会計補正予算（第9号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第2号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第2号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第10号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第2号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第11号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第2号））	30.5.31	30.5.31	承認

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第12号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度飯田市各財産区会計補正予算（第3号））	30.5.31	30.5.31	承認
報告第13号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.5.31		
報告第14号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.5.31		
報告第15号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.5.31		
報告第16号	権利の放棄について（道路施設の破損による損害賠償金に係る債権）	30.5.31		
報告第17号	権利の放棄について（市営住宅の家賃に係る債権）	30.5.31		
報告第18号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	30.5.31		
報告第19号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	30.5.31		
報告第20号	平成29年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	30.5.31		
報告第21号	平成29年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	30.5.31		
報告第22号	平成29年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	30.5.31		
報告第23号	平成29年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	30.5.31		
報告第24号	平成29年度飯田市各財産区会計繰越明許費繰越計算書の報告について	30.5.31		
報告第25号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	30.5.31		
報告第26号	飯田清掃株式会社 of 経営状況を説明する書類の提出について	30.5.31		
報告第27号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	30.5.31		
報告第28号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	30.5.31		
報告第29号	一般財団法人飯田市南信濃振興公社の経営状況を説明する書類の提出について	30.5.31		
報告第30号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度飯田市一般会計補正予算（第3号））	30.8.28	30.8.28	承認
報告第31号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度飯田市一般会計補正予算（第4号））	30.8.28	30.8.28	承認
報告第32号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.8.28		
報告第33号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	30.8.28		
報告第34号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.11.26		
報告第35号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.11.26		
報告第36号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	30.11.26		

(2) 議会において執行した選挙・選任等

(平成30年1月から平成30年12月まで)

会 期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	H30. 2. 27	・ 監査委員の選任
		・ 固定資産評価審査委員会の委員の選任
第2回定例会	H30. 5. 31	・ 飯田市東野財産区管理委員の選任
		・ 飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・ 飯田市鼎財産区管理委員の選任
第3回定例会	H30. 8. 28	・ 教育委員会の委員の任命
		・ 人権擁護委員の候補者の推薦
		・ 飯田市野底財産区管理委員の選任
第4回定例会	H30. 11. 26	・ 選挙管理委員会の委員の選挙・選任
		・ 選挙管理委員会の補充員の選挙・選任

(3) 委員会活動開催状況

(平成30年1月から平成30年12月まで)

	常任委員会			特別 委員会	議会 運営 委員会	議会 改革 推進 会議	広 報 広 聴 委員 会	全 員 協 議 会
	総 務	社 会 文 教	産 業 建 設	リ ニ ア 推 進				
委員会	7	6	8	5	15	15	15	-
協議会	5	5	5	5	-	-	-	7
計	12	11	13	10	15	15	15	7

(4)請願陳情

①委員会別審査状況

(平成30年1月から平成30年12月まで)

		処 理 状 況						合計	
		採択	趣旨採択	審議未了	取下げ	不採択	審議中		議決を要さず
請 願	総務	1							1
	社会文教	3				4			7
	産業建設								
	計	4				4			8
陳 情	総務					4			4
	社会文教	1	1						2
	産業建設					1			1
	計	1	1			5			7

※受理番号1件のもので、要旨が数項目ある場合

① 同一委員会で、全ての項目を審査し、全項目を一括採決した場合は、1件とする。

② 処理状況が複数にわたる場合は、その結果をそれぞれ1件とする。

③ 複数の委員会へ項目を分けて付託審査した場合は、それぞれを1件とする。

したがって②③の処理がされた場合は、「受付番号」の件数より、処理状況合計数は大きくなる。

②請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
社文	30請願 第1号	国に対し、介護職員の処遇改善と確保のための奨学金等の施策実施を求める意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
社文	30請願 第2号	国に対し、介護報酬の引き上げ、介護サービスの提供体制の充実を求める意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
社文	30請願 第3号	国に対し、生活保護基準引き下げの中止を求める意見書を提出願いたい	30.6.13	30.6.26	不採択
総務	30請願 第4号	国に対し、「地方財政の充実・強化を求める意見書」を提出願いたい	30.9.6	30.9.21	採択
社文	30請願 第5号	国に対し、「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書」を提出願いたい	30.12.7	30.12.18	採択
社文	30請願 第6号	国に対し、「国の責任による35人以下学級推進と、教育予算の増額を求める意見書」を提出願いたい	30.12.7	30.12.18	採択
社文	30請願 第7号	国に対し、「複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書」を提出願いたい	30.12.7	30.12.18	採択
社文	30請願 第8号	国に対し、「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書」を提出願いたい	30.12.7	30.12.18	不採択

③陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
総務	30陳情 第1号	国に対し、「緊急事態条項」を新たに憲法に設けないことを求める意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
産建	30陳情 第2号	国に対し、主要農作物種子法廃止に際し、公共財としての日本の種子を保全する新たな法整備と積極的な施策を求める意見書を提出願いたい	30.3.8	30.6.26	不採択
総務	30陳情 第3号	国に対し、憲法第9条改定に反対する意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
総務	30陳情 第4号	国に対し、憲法9条改定に反対する意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
総務	30陳情 第5号	国に対し、憲法第9条改定に反対する意見書を提出願いたい	30.3.8	30.3.22	不採択
社文	30陳情 第6号	市に対し、市内の小中学校の全教室、体育館並びに全保育園、放課後児童クラブへのエアコン設置を最優先で取り組むよう要望願いたい	30.8.22	30.9.21	趣旨採択
社文	30陳情 第7号	長野県知事に「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書」を提出願いたい	30.12.7	30.12.18	採択

(5) 定例会の質問事項

① 平成30年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

平成30年3月7,8日

No.	氏名	項目・要旨
1	原 和 世 (会派みらい)	<p>1 平成30年度の市政経営の方向に関して</p> <p>(1) 平成30年度にかける想いと政策の最重点課題は</p> <p>(2) 地方創生(地域活性化策)の成否と地域コミュニティの質との関連性とは</p> <p>(3) いいだ未来デザイン2028戦略計画の推進について</p> <p>① 計画の確実な推進のための指標として飯田市版総合戦略に用いられた重要業績評価指標(KPI)などの工夫は</p> <p>② 毎年重点化した「戦略計画」(P)の策定に取り組むが、その際の評価(C)の内容を示すことの考えは</p> <p>③ 飯田市当初予算の概要版と2028戦略計画の中で示されている事業年度と進捗状況確認指標の数値がまちまちだが基本的な考え方は</p> <p>(4) 産業振興と人材育成の拠点整備について</p> <p>① 基本目標1の指標「学卒者の地域内回帰・定着率」の取り組みについて、4つの戦略計画について期待される成果をどのように捉えているか</p> <p>② 同指標のとり方に関し、回帰と定着率はその性格から分離すべきではないか</p> <p>③ 飯田航空宇宙プロジェクトは拠点施設の中核的事業であるが、拠点整備後の展望についてどのように捉えているか(組織・人材・資金など)</p> <p>④ 航空宇宙だけでなく医療・食品への取り組みへの挑戦も計画にあるが、どのように進めようとしているか</p> <p>(5) 部局・分野を超えての事業構想力について</p> <p>① 2028戦略計画における経済産業政策は市政における最重要施策の一つであるが、その進行管理に部局横断の事業構想力をどのように取り込むか</p> <p>② 飯田市として南信州広域連合及び公益財団法人南信州・飯田産業センターとの政策調整をどのように考えるか</p>
2	竹 村 圭 史 (会派のぞみ)	<p>1 管理されていない屋外広告物について</p> <p>(1) 屋外広告物設置から撤去までの管理状況について</p> <p>① 屋外広告物禁止地域、屋外広告物許可地域、屋外広告物特別規制地域は、どのように行っているか</p> <p>② 上記以外の地域は、どのように行っているか</p> <p>(2) 管理されていない屋外広告物について</p> <p>① 屋外広告物禁止地域、屋外広告物許可地域、屋外広告物特別規制地域の状況は</p> <p>② 上記以外の地域の状況は</p> <p>(3) 条例第18条「除却の義務」において、「許可を受けた者」とあるが、この定義は</p> <p>(4) 安全や景観面から、管理されていない屋外広告物の撤去を設置者に対し促していくことが必要ではないか</p> <p>(5) 設置者不明の場合、誰が撤去するか</p> <p>(6) 今後の課題は</p> <p>2 家庭ごみに対する飯田市のPR等について</p> <p>(1) 市民から資源ごみ(プラマーク)のごみ袋の大きさについて意見を聞くが、9月以降の排出実績から見たごみ袋の大きさをどのように判断しているか</p> <p>(2) 昨年9月にごみ出し方法が変更になったことから、当面の間は「ごみ出しガイドブック」等によるPRを継続していくことが必要ではないか</p> <p>(3) ごみ袋の変更により、目の不自由な方への対応はどのようにしたか</p>

No.	氏名	項目・要旨
3	福澤克憲 (市民パワー)	<p>1 飯田市中心市街地活性化基本計画について</p> <p>(1) 中心市街地活性化の理念は</p> <p>(2) 第2期飯田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況は</p> <p>(3) 次期計画策定に向けての考え方は</p> <p>2 飯田市空家等対策計画について</p> <p>(1) 特別措置法・条例による管理不全空き家の状況は</p> <p>① 「特定空家等」「準特定空家等」の該当件数は</p> <p>② 「特定空家等」について、助言・指導、勧告、命令、代執行の状況は</p> <p>③ 「特定空家等」「準特定空家等」について、緊急安全措置の実施、軽微な措置の命令、軽微な措置の代執行の状況は</p> <p>(2) 空き家の活用・流通の促進状況は</p> <p>① 空き家バンクの登録件数は</p> <p>② 全体の活用状況は</p> <p>③ 商店街の空き店舗の活用状況は</p> <p>④ 中山間地域における空き家の活用状況は</p> <p>(3) 空き家対策への国等の支援について</p> <p>① 地方財政措置の対象となる事業は何か</p> <p>② 対象となる交付金はあるか</p> <p>③ 譲渡所得の特別控除に係る確認書の交付実績はあるか</p> <p>(4) 今後の方向性と課題について</p> <p>① 空き家の活用における方向性と課題は</p> <p>② 管理不全空き家における方向性と課題は</p>
4	吉川秋利 (会派のぞみ)	<p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 全国市長会副会長就任について</p> <p>① 市政への負荷はどうか</p> <p>② 南信州広域連合の課題が山積している状態の中で、主導性はどのように発揮していくか</p> <p>(2) 市政経営の基本方針に関連して</p> <p>① 産業振興と人材育成の拠点整備の進捗状況は</p> <p>② 産業振興と人材育成の拠点について、今後の見通しは</p> <p>③ デザイン系大学院大学設置の方向性は</p> <p>④ 「産業振興と人材育成の拠点」と産業技術総合研究所との連携は</p> <p>⑤ コンベンション施設及びアリーナ施設建設についての考え方は</p> <p>⑥ 国体の競技誘致の考えは</p> <p>(3) 文化会館・鼎文化センター・飯田市公民館の3施設の公共施設マネジメントの進め方は</p> <p>2 公共施設の建設における業者選定(入札)のあり方</p> <p>(1) 落札率(予定価格に対する落札額の割合)の現状は</p> <p>(2) 業者選定(入札)における総合評価落札方式の現状は</p> <p>(3) 基本設計のあり方は</p>
5	福沢清 (会派みらい)	<p>1 森林を生かすため、4月から始まる新しい「飯田市森林整備計画」について</p> <p>(1) 飯田市の森林整備状況は</p> <p>(2) 森林所有者、特に個人所有者への「飯田市森林整備計画」の周知は</p> <p>(3) 「飯田市森林整備計画」を実現するための人材確保は</p> <p>(4) 今回の「飯田市森林整備計画」に初めて掲載された「林地台帳」とはどのようなものか</p> <p>(5) 平成30年度までに「林地台帳の整備」が義務付けられたが、飯田市ではどのように進めていくか</p> <p>(6) 「飯田市森林整備計画」の実現には、木材の販売戦略が必要だがどのように考えているか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	福 沢 清	2 危険な空き家の除却について (1) 所有者と連絡がとれない危険な空き家の状況は (2) 危険な空き家に対して「不在者財産管理人制度」の適用はどうか (3) 除却費用の「固定資産税による事前徴収案」はどうか (4) 危険な空き家に対する除却費用の検討は
6	岡 田 倫 英 (会派のぞみ)	1 ダブルケア(子育てと介護を同時に抱えている世帯)への対応について (1) 課題認識はどうか ① 市内の該当者数を把握しているか ② 地域社会の中での状況をどう捉えるか ア 福祉の視点でどのような対応が必要か イ 雇用労政、ワーク・ライフ・バランスの観点でどのように認識しているか (2) 市として踏み込んだ対応が必要ではないか ① 中堅世代に目を向けるメッセージ政策を打ち出しては ② 部局横断的な対応が必要ではないか ③ トップのリーダーシップで推進してはどうか 2 「シャルルヴィル・メジュール通り」命名について (1) 庁内検討における経過はどうだったか (2) 天龍峡八重桜街道への命名後、どのように活用していくか (3) 飯田5地区まちづくり協議会が要望した内容への対応は ① 「人形劇のまち飯田」における、飯田5地区の位置づけは ② 地区からの積極的な提案に対し、どう受け止めるか
7	古 川 仁 (日本共産党)	1 飯田市の教育について (1) 小学校・中学校の不登校児童・生徒について ① ここ数年の状況は ② 状況をどう考えるか (2) 教職員の勤務実態はどうか ① 教職員の時間外勤務・多忙化が心配されているが実態を把握しているか ② 市は実態をどう考え、どう対応しているか (3) 小学校における外国語活動と英語教科への対応について ① 国が進める小学校英語の学習内容は ② 教職員へのさらなる負担が心配されるが準備状況はどうか
8	木 下 徳 康 (会派のぞみ)	1 公立保育園の民営化について (1) 公立保育園民営化の概略について ① 民営化の目的は ② 民営化した保育園の数と現時点の状況はどうか ③ 現時点で具体的に民営化を進めている園はあるか (2) 民営化した保育園の実績と目的の達成について ① 民営化による施設整備、運営費用のメリットは ② 長時間・未満児保育の受け入れは増加したか ③ 総合的に民営化の効果はあったか (3) 今後、民営化も含めた市内保育園の運営・配置をどう考えているか ① 存続・民営化等、地域からの意見にどう向き合うか ② 今後、民営化はどのような時に進めていくか ③ 園児数の減少が予想されるが、その対応は ④ 市内全体の保育園、認定こども園等の運営・配置をどう考えているか

No.	氏名	項目・要旨
	木下 徳 康	2 小規模特認校と児童数減少について (1) 上村小学校の小規模特認校指定について ① 目的は ② 指定に至る経過は ③ 今後、他の地域から要望があった場合、特認校指定を行うのか ④ 児童数の減少が予想されるが、その対応は
9	湊 猛 (会派のぞみ)	1 飯田市の森林・林業の振興について (1) 森林・林業の今後の方向性は ① 現況をどう捉えているか ② 今後の森林整備の方向性は ③ 林業技術系専門職を配置する考えは (2) 森林づくり県民税による整備と国の森林環境税に関する対応について ① 新たに平成30年度から森林づくり県民税が利用拡大された点は ② 国の森林環境税に関する対応は ③ 積極的利活用の考えは (3) 遠山郷の森林・林業の推進は ① 旧ウッドアンドアースの現状は ② 上村木材・工芸加工販売所(とちの木)の今後の利活用は ③ 林道の整備計画は 2 林業遺産を活用した観光振興について (1) 日本森林学会による林業遺産認定に向けた選定事業に関連して ① 住民主体の「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」の活動をどう捉えているか ② 遊歩道・サイクリングロードの活用は ③ 林業遺産認定に向けての市長の考えは ④ 遠山森林鉄道を観光振興にどう活用するか
10	井 坪 隆 (会派みらい)	1 市長の年頭所感について (1) 「自主的に巻き込まれる」とはどういう意味か 2 リニア時代を見据えた中心市街地の在り方について (1) 市長は、これまでの中心市街地の「位置付けと施策の展開」をどのように評価するか (2) 中心市街地である「中心拠点」とリニア駅周辺である「広域交通拠点」の都市機能の在り方をどう考えるか (3) こうした中心市街地の在り方を、広く共有できる地域のビジョンとするために、どう取り組むか
11	湯 澤 啓 次 (会派のぞみ)	1 いいだ未来デザイン2028の今後の展開について (1) 市長の年頭所感「地球規模で考え、自主的に巻き込まれ、地域で行動する」に込めた市長の思いは (2) 人口ビジョンの実現、活用について ① いいだ未来デザイン2028における人口ビジョンの位置づけは ② 人口10万人規模をどうとらえるか ③ 今後の施策立案に人口ビジョンをどう活かすか (3) 未来ビジョンの今後の展開において多様な主体との関わりは ① 「自主的に巻き込まれ、現場で行動し、やりがいや誇りを抱ける」職員像が求められると思うが 2 市民が誇れる公民館を次世代へ伝えていくために (1) 飯田市の公民館活動が全国から高い評価を受けている理由は何か (2) 自治組織導入後、社会教育機関としての公民館について ① 地域で活躍する人材育成の拠点としての評価は ② 地域の課題に取り組み、学びの拠点としてはどうか

No.	氏名	項目・要旨
	湯澤 啓次	<p>(3) いいだ未来デザイン2028における公民館の役割、重要性は</p> <p>① 公民館主事は「自主的に巻き込まれ、地域で行動し、共に学ぶ」ことが益々重要となると思うが</p> <p>② 公民館長の役割が益々重要と思うが、学びの機会は</p> <p>(4) 市民が誇れる公民館を次世代へ伝えていくためには何が大切か</p> <p>3 リニア中央新幹線関連事業の取り組みについて</p> <p>(1) 4月から見直されるリニア推進体制について</p> <p>① 新たなリニア推進体制は</p> <p>② 「自主的に巻き込まれ、現場で考え、市民から信頼される」態勢になるか</p> <p>(2) 代替地対策の具体的展開は</p> <p>(3) 駅周辺整備エリアに隣接する重点協議区域1.3haに対する市の考えは</p>
12	熊谷 泰人 (会派のぞみ)	<p>1 地域自治区について</p> <p>(1) 平成19年に地域自治区を設置した経緯は</p> <p>(2) 地域自治区の事務所である自治振興センターの役割は</p> <p>① 各地区の職員体制と職務は</p> <p>② 飯田5地区の自治振興センターについて</p> <p>ア 各センター長の職務は</p> <p>イ 各地区に事務所が設置されていない理由は</p> <p>ウ 今後、事務所を設置する考えは</p> <p>エ 職員を増員する考えは</p> <p>(3) 地域協議会について検証状況は</p> <p>① 地域自治区の設置等に関する条例第10条による協議会の権限とは</p> <p>② 任意団体である、まちづくり委員会等との関係は</p> <p>③ 各地区の地域協議会の実態は</p> <p>④ 実態の検証結果から今後の方向性は</p> <p>(4) パワーアップ交付金について検証状況は</p> <p>① 各地区の運営状況をどのように認識しているか</p> <p>② 配分方法や総額の増額、また新たな交付金制度の新設など検討すべきと考えるがどうか</p>
13	小林 真一 (公明党)	<p>1 発達障がい者とその家族への市の対応について</p> <p>(1) 発達障がいの方のケア、家族のサポートの状況は</p> <p>① 発達に支援の必要な子どもの対応とその後のケアの状況は</p> <p>② 発達障がいの子どもと家族へのサポートは</p> <p>(2) 発達障がいの専門医や医療現場の状況は</p> <p>(3) 成人の発達障がいの方の対応は</p> <p>(4) 全ての障がい児・者とその家族の地域生活を支える今後の取り組みは</p> <p>2 信州パーキング・パーミット制度について</p> <p>(1) 信州パーキング・パーミット制度とは</p> <p>(2) 市立病院でのパーキング・パーミット制度における妊産婦への対応は</p> <p>① 妊産婦への周知の状況は</p> <p>② 病院での制度の周知は</p> <p>(3) 表示方法を含め、制度のPRの考えは</p>
14	村松 まり子 (公明党)	<p>1 持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みについて</p> <p>(1) 持続可能な開発目標(SDGs)をいいだ未来デザイン2028でどのように取り組んでいくか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	村松 まり子	<p>2 安全安心のまちづくりについて</p> <p>(1) 女性の視点で命を守る防災対策について</p> <p>① 防災会議の女性委員の人数は</p> <p>② 女性の視点からの防災の取り組みは</p> <p>③ 女性視点の防災ブックを作成してはどうか</p> <p>(2) 避難所等での情報通信環境整備の状況は</p> <p>(3) 災害対応型紙コップ式自動販売機を設置してはどうか</p>
15	清水 優一郎 (会派のぞみ)	<p>1 地域振興について</p> <p>(1) 飯田市の人口動向は</p> <p>(2) 田舎へ還ろう戦略の主な取り組みは</p> <p>(3) 地域おこし協力隊の取り組みは</p> <p>(4) 農業振興ビジョンと地域振興の関係は</p> <p>(5) 地域における学校の位置づけは</p> <p>(6) IIDAブランドの確立に向けた総合的な取り組みは</p>
16	木下 容子 (市民パワー)	<p>1 高齢者を取り巻く諸問題について</p> <p>(1) 飯田市における高齢者数の実態はどうか。また、今後の推移をどう推察しているか</p> <p>① 高齢者数と高齢化率の現状は</p> <p>② 独居高齢者数は</p> <p>③ 要支援・要介護者数は</p> <p>④ 認知症自立度Ⅱ以上の方の人数は</p> <p>⑤ 2025年時点での推計をどう見込んでいるか</p> <p>(2) 高齢者が自分の意志で生活の場を選択するための支援は</p> <p>(3) 地域包括支援センターのさらなる充実に向けてどう取り組むか</p> <p>(4) 在宅での生活を支える「保健・医療・介護・福祉」の連携は</p> <p>(5) 安全・安心に暮らすための見守り体制の整備は</p> <p>(6) 認知症への対策は</p> <p>(7) 高齢者の生きがいつくりは</p> <p>(8) 特殊詐欺の被害が相変わらず続いているが、その対策は</p>
17	塚 平 一成 (会派のぞみ)	<p>1 シティプロモーションの取り組みについて</p> <p>(1) 方向性について</p> <p>① 現状と課題はどうか</p> <p>② 交流や住むことのメリットをどのように訴えるか</p> <p>③ 民間との連携はどのように考えるか</p> <p>④ 地区の魅力を活かしたプロモーション事業をどう推進するか</p> <p>(2) 映像によるプロモーションについて</p> <p>① 市のプロモーション映像について</p> <p>ア 映像はどのように活用されているか</p> <p>イ より効果的に視聴される方策をどう考えるか</p> <p>② 各地区の映像を活用できる仕組みは</p> <p>2 高齢者が地域で安心して暮らせる支援体制について</p> <p>(1) 地域の支援体制について</p> <p>① 独居・高齢者世帯の実情をどう捉えるか</p> <p>② 地域で見守る仕組みはどこまで機能しているか</p> <p>(2) 「飯田市地域見守り活動に関する協定」について</p> <p>① 協定に至る経緯は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	塚 平 一 成	<ul style="list-style-type: none"> ② 県の「しあわせ信州見守り活動」等との関係について <ul style="list-style-type: none"> ア 県協定との位置づけはどうか イ 市内ではどのような効果が見られたか ③ 今後どのように展開するのか ④ 効果的な通報体制づくりをどう進めていくか <ul style="list-style-type: none"> ア 地域との連携をどう図っていくか
18	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 安心・安全のまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 防災・減災に対する市民の意識向上に、どのように取り組む考えか <ul style="list-style-type: none"> ① ここ数年、市民の意識に変化が見られないが、現状をどのように捉えているか ② 市民の意識に変化がみられない理由は何か ③ 防災・減災に関する意識調査のあり方についてどのように検討を進めてきたか ④ 市民の意識向上にむけて、具体的にどのように取り組むか 2 「小さな世界都市」について <ul style="list-style-type: none"> (1) 「小さな世界都市」のコンセプトやイメージを、どのように構築していくか <ul style="list-style-type: none"> ① 「小さな世界都市」とは、どのような「まち」を目指すのか ② コンベンションホールの検討過程において「小さな世界都市」とどのように関連づける考えか ③ シンボルとなるエリアには、どのようなイメージが求められるか ④ 「小さな世界都市」のブランディングをどのように進める考えか
19	後 藤 莊 一 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> 1 市の財政について <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度の決算見込みはどうか <ul style="list-style-type: none"> ① 歳入の見込みは ② 歳出は予算に照らしてどうか ③ 起債や基金残高の状況はどうか (2) 平成30年度の予算案の特徴的なことは <ul style="list-style-type: none"> ① 予算要求時の歳入歳出の額はどうだったか <ul style="list-style-type: none"> ア 編成過程を示す工夫は ② 今後の起債や基金の見通しは ③ 全国的に実質賃金や消費が減少している中、飯田市民の暮らしを守る予算となっているか 2 人口減少について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市の人口が10万人を割ったとの報道があったが、市長の感想は (2) 第5次基本構想では平成28年度の目標人口を10万2千人にしていたが、結果に対する評価は (3) いいだ未来デザイン2028に「人口の将来展望」をうたっているが、年度ごとの目標値は (4) 人口動態の把握と、分析をどう行っていくか (5) 人口減少を食い止める効果的な方策は (6) 人口減少が進んでも持続する地域にするにはどういう方策を立てるか

② 平成30年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

平成30年6月12,13日

No.	氏名	項目・要旨
1	福澤克憲 (市民パワー)	1 中心市街地の現状と課題について (1) 事業者からピアゴ飯田駅前店に係る方針を受け、実施された面談の状況は (2) 閉店された場合の地域への影響、買い物弱者対策等の考え方は (3) 次期中心市街地活性化基本計画への位置づけは 2 地域自治の現状と方向性について (1) 自治活動組織(組合)の現状について ① 自治活動組織への加入状況は ② 行政としての取り組み状況は (2) 市政懇談会で説明されている真の地方創生モデル実現のためのコミュニティ(OS)とは、具体的にどのようなものか (3) 「田舎へ還ろう戦略」の進捗状況、市民と行政の役割は (4) 今後の方向性は
2	福沢清 (会派みらい)	1 飯田下伊那地域で働く人の労働環境について (1) 「飯田下伊那労働白書」の作成は ① 労働実態の把握にどのように取り組んできたか ② 今後「飯田下伊那労働白書」あるいは労働実態把握と公表はどのようにしていくか (2) ワーク・ライフ・バランスの推進の実態はどうか (3) 飯田市役所における女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の課題は何か (4) 市内の事業所と飯田市役所における非正規雇用の実態はどうか
3	岡田倫英 (会派のぞみ)	1 リニア中央新幹線関連事業について (1) リニア推進部の組織体制強化を図ったが現況はどうか ① 用地関係者組合の設立の状況は ② 代替地登録情報の開示に向けた準備状況は ③ 移転対象者個々の状況に応じ、代替地とは別の生活再建策を考へてはどうか (2) 部局横断の取り組みはどうか ① 住宅政策との関連付けは ② 代替地と農地政策の関連付けは (3) 弱い立場の皆さんに寄り添う基本的な姿勢は 2 上村小学校の小規模特認校制度について (1) 初年度がスタートしたが、ここまでの取り組みをどう評価するか (2) 次年度以降に向けた取り組みの考え方は ① ここまでに出た課題をどのように生かすか ② コミュニティスクールとの関連付けは (3) 上村小以外の小規模校について今後どう考えるか ① 特認校のほかの切り口は ② 「田舎へ還ろう戦略」との関連付けは 3 人口減少、若者に目を向けた施策について (1) 当市における人口減少のスピードをどう捉えるか ① 減少が進む要因の内訳分析は ② 追跡調査していく必要があると思うがどうか (2) 地方が少子化対策に取り組む基本的な考え方は (3) 現に市内で生活する20代、30代に目を向けた施策の現状は ① 「いいだ未来デザイン2028」でどのように位置づけているか ② 企業等をきっかけとするつながりづくりはどうか (4) 人口減少が「市民一人当たりの将来負担額」に及ぼす影響をどう考えるか

No.	氏名	項目・要旨
4	熊谷泰人 (会派のぞみ)	<p>1 猛暑における市内小中学校の状況とその対策について</p> <p>(1) 昨年の学校現場での状況は</p> <p>① 熱中症になった児童・生徒数は</p> <p>② 授業への集中はできているか</p> <p>③ 学校行事への影響はどうか</p> <p>(2) 猛暑対策は</p> <p>① 教室への扇風機・エアコンの設置状況は</p> <p>② その他どのような対策を行っているか</p> <p>③ 普通教室へのエアコン設置の考えは</p> <p>ア 学校・PTAなどからの要望は</p> <p>イ 県内他市の小中学校における設置状況を把握しているか</p> <p>ウ 普通教室へのエアコン設置費用等は検討してきたか</p> <p>エ ふるさと納税を使用して設置を進めてはどうか</p> <p>2 市立病院の診療体制について</p> <p>(1) 多角的に診療を行う部門、総合診療科設置について</p> <p>① 総合内科と総合診療科との違いは</p> <p>② 総合診療医とは</p> <p>③ 総合診療科の開設及び総合診療医の配置が必要と考えるがどうか</p>
5	塚平一成 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市美術博物館の活用について</p> <p>(1) 「飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン」の進捗状況は</p> <p>(2) 菱田春草常設展示について</p> <p>① 内外の反響はどうか</p> <p>② 生誕の地としてどのように全国・世界へ発信するか</p> <p>(3) プラネタリウムの利活用について</p> <p>① より多角的な活用の考えは</p> <p>② 自然・文化のガイダンス機能をいかに広めていくか</p> <p>(4) 自然・人文常設展示リニューアルに向けて</p> <p>① リニューアルへの基本ビジョンは</p> <p>② 多様な主体の意見を反映させる体制は</p> <p>2 ゴミのポイ捨て・不法投棄対策について</p> <p>(1) 飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例について</p> <p>① 現在まで目に見える成果はあがっているか</p> <p>② 条例の市民への浸透度は十分か</p> <p>③ 違反案件等への適切な措置はとられているか</p> <p>(2) 防止対策について</p> <p>① 市民啓発活動の状況は</p> <p>② 環境美化重点路線・重点区域の状況は</p> <p>③ ポイ捨て等防止に向けた今後の取り組みをどう考えるか</p>
6	木下徳康 (会派のぞみ)	<p>1 市税等の納付方法について</p> <p>(1) 現在の税の納付方法の種類は</p> <p>(2) それぞれの納付方法による市の手数料は</p> <p>(3) 市立病院におけるクレジットカードによる支払いに関して</p> <p>① 導入後、その現状と効果は</p> <p>② 現金とカード払いの比率は</p> <p>(4) 今後、納付方法の種類を増やす検討は</p> <p>2 新文化会館、コンベンション施設・屋内体育施設の建設の検討状況と方法について</p> <p>(1) 南信州広域連合の進めるコンベンション施設・屋内体育施設建設の進め方に対する飯田市の考えは</p>

No.	氏名	項目・要旨
	木下 徳 康	<p>(2) 新文化会館建設について</p> <p>① 「飯田市の文化ホール施設等検討の進め方」の「建設を視野に検討のポイントを明確化」とは</p> <p>② 南信州広域連合と「検討状況を共有する」とは</p> <p>③ 市内にある3ホールの具体的な検討は</p> <p>(3) 市民に親しまれる新文化会館とするためには</p> <p>① 検討のために市民会議創設の考えはあるか</p> <p>② 市民の意見をどう捉えているか</p>
7	永井 一 英 (公明党)	<p>1 保育園のあり方について</p> <p>(1) 市は、平成18年度に定めた「飯田市公立保育所民営化方針」に沿って公立保育園の民営化を進めているが、現在運営している公立保育園の役割は何か</p> <p>(2) 平成29年度議会報告会において、市民やまちづくり委員会関係者から公立保育園について多くの意見が寄せられた。市は、どのように認識するか</p> <p>(3) 人口減少、少子化高齢化が進む中であって、働き手の減少という構造的な問題が顕在化してきた。延長保育がなされていない公立保育園がある現状を、市はどう考えるか</p> <p>2 公営住宅入居に際しての連帯保証人の取り扱いについて</p> <p>(1) 現状とその実態は</p> <p>(2) 民法の改正により、個人根保証契約に限度額の設定が必要とされることになったと聞く。承知しているか</p> <p>① 影響は</p> <p>② 市の考え方は</p> <p>3 空き家等への対策について</p> <p>(1) 「飯田市空き家等の適正な管理及び活用に関する条例」が施行されて、この7月1日で3年が経過する。条例を活かした「準特定空き家等」、「特定空き家等」への対策は、どこまで進んだか。また、今後どのように進めるか</p>
8	小林 真 一 (公明党)	<p>1 独居高齢者の対応状況について</p> <p>(1) 地域包括ケアシステムの現状は</p> <p>① 住民支え合いマップを活用した日常生活における支援の推進状況は</p> <p>② 見守りネットワークの構築状況は</p> <p>③ 高齢者が自宅で安心して暮らせる仕組みとは</p> <p>(2) 身寄りのない方の埋葬、墓じまいを検討される方への対応は</p> <p>① 身寄りのない方の埋葬はどう対応しているか</p> <p>② 墓じまいを検討される方への対応は</p> <p>③ 西部霊園の合葬式墳墓の利用状況は</p> <p>(3) 地域コミュニティの構築による地域住民の負担への配慮は</p> <p>① 見守り対応の周知とサポートは</p> <p>② 他市における「エンディングプラン・サポート事業」のようなことができないか</p>
9	清水 優 一 郎 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市消防団について</p> <p>(1) 飯田市消防団の現状は</p> <p>(2) 団員確保のための取り組みは</p> <p>(3) 地域防災力の維持、強化に向けた総合的な取り組みは</p> <p>(4) 地域コミュニティにおける消防団の位置づけと、将来の地域づくりにおいて消防団員に期待することは</p>
10	後藤 荘 一 (日本共産党)	<p>1 貧困対策について</p> <p>(1) 生活保護について</p> <p>① 生活保護世帯の子どもは、大学進学を目標として高校進学することはできないか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	後藤 莊一	<p>② 国は生活保護世帯の子どもが大学に進学するとき、世帯分離を指導しているが、飯田市ではどうか</p> <p>③ これらの子どもたちに支援策はあるか</p> <p>(2) 滞納対策について</p> <p>① 国民健康保険税を滞納したとき飯田市は短期保険証の発行をしているが、本人に必ず渡しているか。渡していない時には資格証明書を発行しているか</p> <p>② 児童手当あるいは児童扶養手当など児童関連手当の差し押さえはないか</p> <p>③ 年金の差し押さえはないか</p> <p>④ 納税相談の対応は相談者の立場に立っているか</p> <p>(3) 全国市長会の「ネクストステージに向けた都市自治体の税財政のあり方に関する研究会」の提言について</p> <p>① 消費税率10パーセントの確実な実施とさらなる引き上げは、低所得者をさらに疲弊させるのではないか</p> <p>② 「協働地域社会税(仮称)」の創設は、低所得で暮らしが困難な世帯がさらに困難になるのではないか</p>
11	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<p>1 リニア新時代に向け、ユネスコ登録されている南アルプスの活用について</p> <p>(1) 南アルプスエコパークについて</p> <p>① 南アルプス自然環境保全活用連携協議会について</p> <p>ア 「科学委員会」の取り組みは</p> <p>イ 市民を中心とした普及啓発活動への考えは</p> <p>(2) 聖光(せいこう)小屋の利活用について</p> <p>① 便ヶ島森林公園の管理状況は</p> <p>② 聖光小屋及び、便ヶ島森林公園までの市道整備状況は</p> <p>ア 現在の状況は</p> <p>イ 今後の計画は</p> <p>③ 遠山山の会が中心となり聖光小屋をハイキング、登山、釣等来訪者の安全・利便確保のために活用をしようとしている</p> <p>ア 山岳観光の安全拠点と考えるが市の見解は</p> <p>イ 支援策はないか</p> <p>ウ パークレンジャーやユネスコ観光ガイドといった知見や魅力発信ガイド育成の考えは</p> <p>(3) 「遠山森林鉄道」の林業遺産登録について</p> <p>① 「夢をつなごう森林鉄道の会」が中心となり大きな一歩を踏みだしたと考えるが市の所見は</p> <p>② 利活用や保全、これまでの歴史などを後世につなぐ必要があると思うがどうか</p> <p>2 リニア新時代に向けたライフスタイル提案・地域観光のあり方について</p> <p>(1) バイオビレッジ「南信スタイル」を起点としたライフスタイルの構築について</p> <p>① 地域の活性化への魅力の再発見は</p> <p>② 第二の人生を過ごす場所として取り組む考えは</p> <p>(2) 里山の景観について</p> <p>① ランドスケープデザインの視点は</p> <p>② 自然再生の取り組みは</p> <p>③ 樹木葬の考えは</p> <p>(3) デザイン系の教育機関について</p> <p>① 現在の進行状況は</p> <p>② 人の手の入った自然を観光資源としてデザインする新たな分野への展開は</p>

No.	氏名	項目・要旨
12	木下容子 (市民パワー)	<p>1 子どもの貧困対策について</p> <p>(1) 長野県が実施した「子どもと子育ての生活実態調査」の結果について</p> <p>① 調査結果が飯田市にフィードバックされたか。されたとすれば、その状況はどうだったか</p> <p>② 「子どもと子育ての生活実態調査」の結果をどう捉えるか</p> <p>③ 市として、さまざまなケースにどう寄り添っているか</p> <p>(2) 「信州子どもカフェ 南信州プラットフォーム会議」について</p> <p>① 長野県では「信州子どもカフェ 南信州プラットフォーム会議」を立ち上げたが、その経過と現状はどうか</p> <p>② 市内からは、どんなメンバーが参加しているか</p> <p>(3) 「子ども食堂」について</p> <p>① 子どもの居場所づくりのためには、「子ども食堂」は重要な役割を果たすと考えるが、飯田市の「子ども食堂」の現状はどうか</p> <p>② 「子ども食堂」への支援はできないか</p> <p>(4) 貧困の連鎖を断ち切るための学校での学習支援などの取り組みはどうか</p> <p>(5) 貧困対策のための保護者に対する就労支援、経済的支援はどうか</p>
13	古川仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の教育について</p> <p>(1) 飯田コミュニティスクールについて</p> <p>① 昨年度の取り組み状況は</p> <p>② 学校運営協議会が重要と考えるがどのように支援していくか</p> <p>③ 今後より多くの方が関わるための方策は</p> <p>(2) 児童・生徒を取り巻く環境について</p> <p>① 学校におけるクラス編成について</p> <p>ア 1クラスの定員はどのように決められているか</p> <p>イ 児童・生徒が学びやすいクラスの人数は</p> <p>② トイレの状況をどのように把握しているか</p> <p>ア 児童・生徒の声をどのように把握しているか</p> <p>イ 洋式トイレの割合は</p> <p>ウ 今後どのように改修していくか</p>
14	山崎昌伸 (会派のぞみ)	<p>1 公文書の扱いと情報公開について</p> <p>(1) 市において公文書はどのように管理されているか</p> <p>① 「飯田市文書管理規程」と「公文書等の管理に関する法律」との関係は</p> <p>② 「飯田市情報公開条例」に定義される「公文書」と「飯田市文書管理規程」に定義される「文書」の違いは</p> <p>③ 「飯田市情報公開条例」に定義される「公文書」とは、具体的にどのようなものか</p> <p>④ 「公文書」の管理は適正に行われているか</p> <p>⑤ 現状の管理のあり方を見直す考えはあるか</p> <p>(2) 情報公開に進展はみられるか</p> <p>① 過去の情報公開に関する一般質問で「検討中」と答弁された事項の検討結果は</p> <p>② 国・県、マスコミ等が行う各種調査において、自治体の意向や考え方を問う調査は年間ではどの程度あるか</p> <p>③ これらの回答内容を情報公開する考えはあるか</p> <p>2 「地酒等における乾杯」と「料理の食べきり」の推進について</p> <p>(1) 市の果たす役割は</p> <p>① 新しい条例が施行された際、職員へはどのように周知されるか</p> <p>② 「食べきり15・15運動」をどのように広めようとしているか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
15	吉 川 秋 利 (会 派 の ぞ み)	<p>1 飲酒運転事故対応について</p> <p>(1) 「当て逃げ事故」と言う事で説明されているが、飲酒運転事故ではないのか</p> <p>(2) どのような体制で対策会議を行い、結果としてどのような対策をとることになったか</p> <p>(3) コンプライアンスをどう考えているか</p> <p>2 ピアゴ飯田駅前店閉店について</p> <p>(1) ピアゴ飯田駅前店の現状はどのようになっているか、又今後の方向性をどう考えるか</p> <p>(2) 飯田市の関わりとしては、どのようなスタンスにあるか</p> <p>(3) 買い物弱者という観点からすれば、福祉部門の関わりがあるべきではないか</p> <p>(4) 駅前の再開発に関するビジョンへの展開は</p>

③ 平成30年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

平成30年9月5,6日

No.	氏名	項目・要旨
1	原 和 世 (会派 みらい)	<p>1 総合政策におけるスポーツ文化と飯田市について</p> <p>(1) スポーツによる地域振興に関して</p> <p>① スポーツを文化として育むことについてどの様に考えるか</p> <p>② スポーツを軸とした地域振興の考えは</p> <p>③ その上でスポーツマネジメントの取り組みによるスポーツ振興の考えは</p> <p>④ 南信州広域連合で整備検討しているコンベンション・屋内体育施設は飯田市のスポーツ文化に対しどの様にその役割を果たすと考えるか</p> <p>(2) スポーツ文化と「いいだ未来デザイン2028」に関して</p> <p>① スポーツ文化は未来ビジョンに於いて目指すまちの姿として示されているが基本目標・戦略計画における位置づけはどうか</p> <p>② 飯田市スポーツ推進計画ではすべての市民がスポーツを「する」だけでなく「見る」「支える」ことを目指すとしているがその評価は</p> <p>③ また、スポーツ施設の整備充実に関し飯田市公共施設マネジメントで検討とあるがどうか</p>
2	熊 谷 泰 人 (会派 のぞみ)	<p>1 今年の猛暑における市内小中学校の状況とその対策について</p> <p>(1) 学校現場での状況は</p> <p>① 猛暑の影響により、熱中症や体調をくずした児童・生徒はいたか</p> <p>② 児童・生徒・教師への影響はどうであったか</p> <p>(2) 猛暑対策は</p> <p>① 今年新たに行った猛暑対策と、その効果はどうであったか</p> <p>(3) 全教室、職員室へのエアコン設置について</p> <p>① 「政府は来年夏までに全ての公立小中学校にクーラーを設置するため予算措置を図る」と報じられたが具体的な内容を把握しているか</p> <p>② 長野県の補助等は</p> <p>ア 教職員の職場環境の整備のためにも、職員室への設置には県の補助を要望すべきと考えるがどうか</p> <p>③ 教育委員会では設置費用等の把握などで検討に入ったとのことだが、その内容は</p> <p>ア 全教室へ設置の方向で検討しているか</p> <p>イ 設置費用のコスト抑制に向け、あらゆる手法を検討していくべきと考えるがどうか</p> <p>ウ 今後のスケジュールは</p> <p>④ 早急に全教室にエアコンを設置すべきと考えるが、市長の見解は</p>
3	竹 村 圭 史 (会派 のぞみ)	<p>1 学校施設の長寿命化計画策定について</p> <p>(1) 小中連携・一貫教育と飯田コミュニティスクールのこれまでの評価と課題は</p> <p>(2) これまでに出示された学校施設に関する課題への対応状況について</p> <p>① トイレの洋式化を含む給排水設備の対応方針は</p> <p>② その他の対応方針は</p> <p>(3) 長寿命化計画策定にあたっての基本的な考え方は</p> <p>(4) 財政面をどのように対応するか</p> <p>(5) 長寿命化計画を策定するにあたり、小中学校の将来像をどのように考えるか</p>
4	福 澤 克 憲 (市民 パワー)	<p>1 ピアゴ飯田駅前店閉店に係る影響と対策について</p> <p>(1) 事業者との面談の状況は</p> <p>(2) 市民生活への影響、買い物弱者対策等の考え方は</p> <p>(3) 短期的視点、長期的視点での今後の方向性は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	福澤 克憲	<p>2 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <p>(1) 第6次飯田市男女共同参画計画に基づく、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進について</p> <p>① 働きやすい職場環境の整備の進捗状況は</p> <p>② 今後の方向性は</p> <p>(2) 飯田市における非正規労働者の現状と課題について</p> <p>(3) 飯田市役所(事業主)としての取り組みと現状について</p> <p>① 飯田市人財育成基本方針の理念は</p> <p>② 部長級ポストの現状は</p> <p>③ 障害者の雇用率は</p> <p>④ 飯田市定員適正化計画における正規職員、臨時・非常勤職員の推移と現状は</p> <p>⑤ 平成32年4月に施行される会計年度任用職員とはどのような制度か</p> <p>⑥ 今後の方向性は</p>
5	岡田 倫英 (会派のぞみ)	<p>1 いいだ人形劇フェスタ20周年について</p> <p>(1) 開催を終え、市として現時点での総括は</p> <p>① フェスタを通じて、地域づくりの示唆を得られないか</p> <p>ア 中心市街地「本部公演」における交流・にぎわいの位置付けは</p> <p>イ 「地区公演」から交流人口・関係人口の深化につなげられないか</p> <p>② 「ささえる力」の充足を喫緊の課題として考えてはどうか</p> <p>(2) 海外交流はどうだったか</p> <p>① シャルルヴィル・メジュール市、AVIAMA関係者を招へいた自己評価は</p> <p>② AVIAMA総会開催の実績をどう生かしていくか</p> <p>2 飯田版国際会議の在り方について</p> <p>(1) 国際会議の開催に取り組む基本的な考え方は</p> <p>(2) 「誘致型」「内発型」に大きく分けられるが、どのように特徴分析するか</p> <p>① 「内発型」を重視すべきと思うがどうか</p> <p>② 「人形劇」「農村文化」「交通」などは具体的なテーマになり得ないか</p> <p>(3) 開催に必要な環境整備をどう考えていくか</p> <p>(4) 実現に向けた中長期計画策定が必要では</p>
6	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の子育て支援について</p> <p>(1) 子どもの医療費の窓口無料化について</p> <p>① 受給者負担金500円の在り方をどの様に考えているか</p> <p>② 今後廃止し完全無料化する考えは</p> <p>2 飯田市の教育について</p> <p>(1) 子どもたちが学ぶ環境について</p> <p>① 今年の猛暑をどの様にとらえているか</p> <p>② 今後、どの様な対策を考えているか</p>
7	湊 猛 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市の目指す教育について</p> <p>(1) 持続可能な開発のための教育(ESD)による地域創生の可能性と今後の展開は</p> <p>① ESDの概念と基本的な考え方をどう捉えているか</p> <p>② 各学校のグランドデザインでのESDの積極的活用は、市教育委員会として、今後どのような取り組みを検討しているか</p> <p>(2) ユネスコスクール加盟申請における活動目的に関して</p> <p>① ユネスコスクールとは、具体的にどのようなものなのか。加盟するための手続きは</p>

No.	氏名	項目・要旨
	湊 猛	<ul style="list-style-type: none"> ② 遠山郷の上村小学校、和田小学校、遠山中学校の3校では加盟申請をし、登録に向けて取り組んでいるが、市はどのような支援をして成果を望むか ③ 飯田市全体でESDとユネスコスクールを取り組む考えは ④ 市教育委員会、学校、公民館は地域との連携が必要と思われるが市の考えは
8	村松 まり子 (公明党)	<p>1 保健・福祉施策の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 認知症施策の推進について <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の初期段階に対する取り組み、課題認識、今後の対策は ② 認知症初期集中支援チームの取り組み状況、課題は ③ 成年後見制度の取り組み、利用状況は (2) 「孫育て応援ブック」について <ul style="list-style-type: none"> ① 孫育ての相談の状況と市の考え方は ② 「(仮称)孫育て応援ブック」を作成・配布してはどうか (3) 乳幼児健診における小児がん(網膜芽細胞腫)の早期発見について <ul style="list-style-type: none"> ① 小児がんの中でも網膜芽細胞腫は早期発見が有効とされているが、医学的にどうか ② 小児がん網膜芽細胞腫の早期発見のため乳幼児健診の医師の診察項目に「白色瞳孔」を明記してはどうか (4) 高齢者用肺炎球菌の定期予防接種について <ul style="list-style-type: none"> ① 平成26年度から平成29年度の当市の定期接種対象者の接種率(対象者数と接種者数)は ② 平成31年度以降の国の制度の概要は
9	湯澤 啓次 (会派のぞみ)	<p>1 地域経済自立促進に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 経済自立度向上の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ① 「外貨獲得」はどこまで進んだか ② 「域内消費」はどこまで進んだか ③ 地域産業の事業承継、イノベーションに対する市の考え、取り組みは (2) 循環型経済による地域経済自立促進について <ul style="list-style-type: none"> ① 「循環型経済」に対する市長の考えは ② 「食」の域産域消アップへ向けた取り組みは <ul style="list-style-type: none"> ア 農業、食品産業、商業との連携による「域内貿易」の考えは イ 食の地域ブランド創出へ向けた取り組みは ③ 「エネルギー」の域産域消は ④ 地域経済循環分析手法の確立は <p>2 リニア中央新幹線関連事業の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 用地取得の業務体制について <ul style="list-style-type: none"> ① 現状の取り組み状況は ② 今後の具体的展開は (2) 代替地登録情報閲覧の対応について <ul style="list-style-type: none"> ① 登録内容、閲覧状況は ② 希望する物件、特に農地に対する庁内連携は (3) 警察官舎の移転先について <ul style="list-style-type: none"> ① 市の考えは ② 今後、地元との連携も含めどう進めていくか (4) 代替地エリアへの対応について <ul style="list-style-type: none"> ① 現在の取り組み状況は ② 広域的施設の動向の影響下にある代替地の方針は

No.	氏名	項目・要旨
10	山崎昌伸 (会派のぞみ)	<p>1 安全・安心のまちづくりについて</p> <p>(1) 西日本豪雨から学ぶことは</p> <p>① 西日本豪雨と同程度の雨が降った場合の被害想定は</p> <p>② 西日本豪雨から何を教訓とすべきか</p> <p>③ 防災減災対策で見直しが必要と思われることは</p> <p>2 「小さな世界都市」について</p> <p>(1) 「小さな世界都市」のブランディングの進捗状況は</p> <p>① 「小さな世界都市」のイメージ作りをどう進めるか</p> <p>② AVIAMA総会等、一連の人形劇関連のイベントを経てこれからのブランディングをどう進めるか</p> <p>3 元号の改元について</p> <p>(1) 元号改元に伴う市民生活への影響は</p> <p>① 元号改元に伴って予想される市民生活への影響と、その対策は練られているか</p> <p>② これを機会に西暦の表記について議論を深めてはどうか</p>
11	小林真一 (公明党)	<p>1 地域コミュニティと、その拠点の一つである集会施設について</p> <p>(1) 住民に最も身近な自治組織(常会、組合等)の現状をどう認識しているか</p> <p>(2) 集会施設の現状とあり方は</p> <p>① 各地域の集会施設の現状をどう認識しているか</p> <p>② 新築・改築、修繕に対する補助事業の内容は</p> <p>③ 「集会施設のバリアフリー等アンケート調査」の内容と結果は</p> <p>④ 高齢化、人口減少に伴い、これからの集会施設のあり方は</p> <p>2 住民に最も身近な自治組織の防災について</p> <p>(1) 自治組織における防災対策と災害時の役割について</p> <p>(2) 学童保育の現状及び課題認識は</p> <p>① 災害時における自治組織の対応について</p> <p>ア 高齢者、移動困難者、独居者の対応は</p> <p>イ 災害時における行方不明者の氏名公表は</p> <p>ウ 自主防災組織施設整備事業との関係は</p> <p>② 各集会所の立地状況、耐震状況の把握は</p>
12	塚平一成 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市食育推進計画について</p> <p>(1) 子どもたちへの情操教育について</p> <p>① 食べ物への感謝の気持ちを通じて命の大切さを育む教育はどの位置づけ実践しているか</p> <p>② 子どもの性格形成へ及ぼす食生活の影響について考査しているか</p> <p>(2) 飯田ならではの計画としていくためには</p> <p>① 環境都市・国際都市として位置づけをどう考えるか</p> <p>② 飯田の価値をどのように活かし広めていくか</p> <p>2 防災と福祉の施策について</p> <p>(1) 高齢者世帯の家具転倒防止対策について</p> <p>① 早急な対応を要する世帯をどう把握しているか</p> <p>② 上記世帯への啓発はどのよう考えるか</p> <p>③ どのような支援が必要と考えるか</p> <p>(2) 聴覚障害者への被災時対応について</p> <p>① 現状をどう把握しているか</p> <p>② 情報提供の体制はどのよう講じられるか</p> <p>③ コミュニケーション支援策はどのよう講じられるか</p>

No.	氏名	項目・要旨
13	清水 優一郎 (会派のぞみ)	<p>1 中山間地域振興計画について</p> <p>(1) これまでの計画(第一次計画)の振り返りは</p> <p>(2) 各地区(下久堅、上久堅、千代、龍江、三穂、上村、南信濃)での現在の取り組み状況は</p> <p>(3) 「いいだ未来デザイン2028 基本目標8:新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる」を新しい計画(第二次計画)にどう反映させていくか</p> <p>① 人口以外の数値目標設定は</p> <p>② 継続的に地域経営を行っていくために、地域をつくる人をつくる必要があると考えるが、創業塾、ビジネスコンペ等との連携はどうか</p> <p>③ 新しい地域経営の仕組みをつくるためにI-Port(新事業創出支援協議会)との協働はどうか</p> <p>(4) 中山間地域振興における産業振興の考え方は</p> <p>① 地元企業との連携に向けた積極的な働きかけはどうか</p> <p>② 担当職員体制の増強、産業経済部との協業による強化はどうか</p> <p>③ パワーアップ地域交付金の配分等への配慮は</p> <p>④ 中山間地域振興計画を中山間地域創生計画に名称を変更したらどうか</p>
14	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<p>1 リニア新時代に向けたライフスタイル提案・地域観光のあり方について</p> <p>(1) 里山の景観について</p> <p>① ランドスケープデザインの視点は</p> <p>② 自然再生の取り組みは</p> <p>③ 樹木葬の考えは</p> <p>2 災害への対応について</p> <p>(1) 火災での、罹災・被災について</p> <p>① 災害見舞金制度は</p> <p>② 罹災証明書発行は</p> <p>(2) 住宅火災被災者への支援は</p> <p>① 災害見舞品の支給は</p> <p>② 市営住宅への一時入居は可能か</p> <p>③ ごみ処理手数料の負担軽減は</p> <p>(3) 税金の減免対応は</p> <p>(4) 罹災・被災された市民の安否確認は</p> <p>① 発災時の確認は誰がどのようにしているか</p> <p>② 発災後の居住地やその暮らしの状況確認について</p> <p>ア 転居先の把握等は</p> <p>i 独居高齢者の場合の把握や支援は</p> <p>ii その他世帯の場合の把握や支援は</p> <p>(5) 火災現場で対応された消防団員からの声の把握と反映は</p> <p>① 水圧が弱い現状(特に中山間地域)への対応は</p> <p>② 消防設備の位置情報をスマートフォンなどの地図アプリ上に表示できるよう整備できないか</p> <p>3 通学路の安全確保について</p> <p>(1) 公共エリア以外の倒壊の恐れがあるブロック塀に対する対応は</p> <p>① チェックはどのようにしたか</p> <p>② 倒壊が想定されそうな物件にはどう対応していくのか</p> <p>ア 通学路の経路変更は</p> <p>イ 民地等のブロック塀への撤去・改修への対応は</p> <p>(2) ブロック塀以外の危険要因への対応は</p> <p>① ゾーン30の整備が進んだが、自動車等の安全運転の啓発は</p> <p>② 安全施設整備の状況と今後の状況は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	新井 信一郎	<p>4 「風越山の日」制定について</p> <p>(1) 市民有志が毎年6月1日に「風越山を撮ろう」と題し、本年度で17回目を数えるイベントになり、市民それぞれの思いがこもった風越山をモチーフにした作品が、市のアーカイブに寄与している</p> <p>① 市は「風越山」をどのように位置付けているか</p> <p>② 「風越山」を基点に市民有志団体の取り組みが市を愛する活動となっているが、市の対応は</p> <p>③ 6月1日を「風越山の日」と制定し、これまで以上に市民活動への弾みとしてはどうか</p> <p>5 リニア新時代の「小さな世界都市」構築への取り組みについて</p> <p>(1) シャルルヴィル・メジュール市のボリス・ラビニオン市長から提案のあった、人形劇に限らない幅広いジャンルにおける交流や、中・高校生の相互の短期留学制度などの人材交流に向けた取り組みへの考えは</p> <p>① 民間レベルでの交流に対し市の支援は</p> <p>② 中・高校生の留学制度の構築は</p>
15	木下 徳康 (会派のぞみ)	<p>1 「いいだ未来デザイン2028」について</p> <p>(1) 人口ビジョンについて</p> <p>① 人口ビジョンの実現の方向性は</p> <p>② 現在の取り組み状況と課題分析の状況は</p> <p>③ 今後の取り組みについて</p> <p>(2) 未来ビジョンについて</p> <p>① 未来ビジョンにおける市の役割は</p> <p>2 SDGs、RE100に取り組むことと飯田の産業、人の流れをつくることへの影響について</p> <p>(1) SDGs(持続可能な開発目標)について</p> <p>① いいだ未来デザイン2028における重要性は</p> <p>② SDGsの目標7:「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に対する環境文化都市宣言をしている飯田市の考えは</p> <p>(2) RE100(再生可能エネルギー100%)について</p> <p>① 飯田市のRE100への認識は</p> <p>② 国、県などの取り組みに対する認識は</p> <p>③ 飯田市として目指すことはできるか</p> <p>(3) SDGs、RE100に取り組むことは飯田のブランド向上につながられるのではないか</p>
16	木下 容子 (市民パワー)	<p>1 地域防災の更なる充実について</p> <p>(1) 地域ぐるみでの防災訓練をどう進めるか</p> <p>① 飯田市地域防災計画の「防災訓練計画」には、「地域ぐるみの体制」で訓練を実施するとあるが、事業所などと連携した訓練はできているか</p> <p>② 地域防災計画を自主防災組織が共有できているか</p> <p>(2) 避難所開設・運営について</p> <p>① 発災直後に誰でも避難所開設が可能となる「ファースト・ミッション・ボックス」とはどのようなものか。また、各地区の自主防災会への普及をどう考えるか</p> <p>② 防災士などと協働しての避難所運営が必要と考えるがどうか</p> <p>③ 防災の備蓄品に、あらかじめ粉ミルクや紙おむつ、女性用品などを一定量確保する必要があると考えるが、飯田市の状況はどうか</p> <p>④ 避難所における、トイレの環境整備をどう進めるか</p> <p>⑤ 避難所ではペットが精神的な癒しになる一方で、衛生面や鳴き声など問題も多い。ペットへの対策はどうか</p> <p>⑥ 避難者の車中泊や、テント泊への対応を想定しているか</p> <p>⑦ 在宅避難者への対応も想定しているか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 容 子	<p>(3) 女性の目線に立った防災・減災・復旧対策をどう進めるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災計画策定段階で、女性の意見はどのように取り入れられたか ② 発災後の避難所運営・地域における災害復旧対策の意志決定の場に、女性を選出する考えはあるか ③ 性別を考慮した避難所の設計はどうか ④ 乳幼児を持つ家庭への配慮はどうか ⑤ 高齢者、妊婦、障がい者(児)など、弱者への対応はどうか ⑥ 今後、女性を防災リーダーとして、育成する考えはあるか ⑦ 大災害時には、女性の離職者の割合が高くなる傾向がある。女性が働き続けられる環境整備をどのように進めるか <p>(4) 子どもたちへの防災教育の現状はどうか。「釜石の奇跡」を参考に、更なる防災教育の充実をどう行うか</p>
17	後 藤 莊 一 (日 本 共 産 党)	<p>1 貧困対策について</p> <p>(1) 滞納者への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生活困窮世帯の滞納が解決するよう手を差し伸べているか ② 生活困窮を理由に徴収停止をしているか ③ 相談・支援の全庁的に連携した体制はあるか <p>(2) 生活再建支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多重債務のほか家計、税務、法律、暮らし全般の相談など専門機関等との連携は <ul style="list-style-type: none"> ア まいさぼ飯田との連携は イ 県や市の消費生活センターとの連携は ウ 市税等債権の滞納の情報を本人の同意を前提に、弁護士など解決の相談を受ける専門家に提供する体制は エ 個別の事案を対象に庁内や専門家を集めた会議の開催は <p>2 消費者保護について</p> <p>(1) 特殊詐欺等で悪質な業者から押収した飯田市内の顧客情報を消費者庁等から提供を受けているか</p> <p>(2) 訪問販売者登録制度を導入してはどうか</p> <p>3 農業振興策について</p> <p>(1) 飯田市内の農家の現状は、また、農地の状況は</p> <p>(2) 農地や地域農業を守ることを目的とした農業法人など事業体の設立や、その事業体を支援してはどうか</p>

No.	氏名	項目・要旨
1	熊谷 泰人 (会派のぞみ)	<p>1 市長の市政経営と予算編成方針について</p> <p>(1) 「いいだ未来デザイン2028」がスタートし、これまでの市政経営の総括と今後の進め方は</p> <p>(2) 平成31年度予算編成の基本方針は</p> <p>(3) 長期的な財政見通しと財源の確保は</p> <p>2 地域自治組織のあり方について</p> <p>(1) 導入後10年余が経過した地域自治区の現状をどのように捉えているか、また課題解決に向けての考えは</p> <p>(2) 組合未加入の問題をどう捉え、行政としてどのようなサポートをしていくか</p> <p>3 リニア中央新幹線に関連する諸課題への対応について</p> <p>(1) 影響を受ける市民にどう寄り添い、要望にどう応えていくか</p> <p>(2) 来年度には補償額の提示が見込まれるが、代替地の確保・整備は間に合うか、市長の考えは</p> <p>(3) リニア本体工事に関して、地元建設業者への発注や雇用の促進など地域への経済波及効果は</p> <p>(4) 二次交通を充実させるため、自動運転による新交通システムをどう考えるか</p> <p>4 公共施設のあり方について</p> <p>(1) 公共施設マネジメント基本方針の進捗状況は</p> <p>(2) 施設の指定管理について基本的な考えは</p> <p>5 若者定住、産業振興、交流人口の拡大への取り組みについて</p> <p>(1) 「産業振興と人材育成の拠点」がいよいよ稼働するが市長の思いと今度の展望は</p> <p>(2) 農業振興ビジョンを着実に推進するための考えは</p> <p>(3) IIDAブランド推進事業の取組状況と成果は</p> <p>(4) 地域連携DMO候補である(株)南信州観光公社との連携による観光施策をどう考えるか</p> <p>(5) ピアゴ飯田店閉店に伴う影響をどう捉え、次期中心市街地活性化基本計画に反映していくか</p> <p>6 医療、福祉、子育て支援について</p> <p>(1) 中間世代におけるダブルケア(子育てと介護の同時負担)をどう捉え支援していくか</p> <p>(2) 「飯田市立病院新改革プラン」をどのように実行していくか</p> <p>(3) 放課後児童クラブの開所時間延長後の現状をどう捉えているか</p> <p>7 スポーツ振興と教育について</p> <p>(1) スポーツ振興のための予算拡充の考えは。特にスポーツ施設の改修・新設に関するビジョンは</p> <p>(2) 地域人教育の成果と今後の考えは</p> <p>(3) 公民館活動の現状と課題の認識は、また今後の考えは</p> <p>(4) 県教育委員会の夏休み延長方針をどう捉えているか</p> <p>8 安全安心な社会、社会基盤整備について</p> <p>(1) 各地区防災訓練の内容について、どのように把握しているか</p> <p>(2) 地域防災の要である消防団員確保と地域防災リーダーの養成は</p> <p>(3) 空屋等対策計画の進捗状況と今後の対応は</p> <p>(4) 市道、河川の長期的改修整備計画の策定は</p> <p>(5) 緊急措置を必要とする倒木や予防措置が必要とみられる支障木の現状と今後の対策は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
2	村 松 まり子 (公 明 党)	<p>1 「いいだ未来デザイン2028」の実現に向けた市政経営について</p> <p>(1) SDGs(持続可能な開発目標)の理念を「いいだ未来デザイン2028」でどう取り組んでいくか</p> <p>(2) 「いいだ未来デザイン2028」における「田舎へ還ろう戦略」をどう評価し展開していくか</p> <p>(3) 平成29年度決算を踏まえた31年度予算編成の基本的な考え方は</p> <p>2 リニア中央新幹線の取り組みについて</p> <p>(1) リニア本体工事関連について</p> <p>① 明かり区間(上郷北条地区・座光寺地区)の進捗状況は</p> <p>② トンネル区間の進捗状況について</p> <p>ア 建設発生土の発生箇所(松川杭口・黒田非常口・土曾川非常口)は</p> <p>イ 建設発生土置き場は</p> <p>(2) 社会基盤整備関連について</p> <p>① リニア駅周辺整備基本設計の進捗状況は</p> <p>② 代替地整備の進捗状況は</p> <p>(3) 戦略的地域づくりに関連して</p> <p>① 国で検討しているスーパー・メガリージョン構想の検討状況と、市の戦略的地域づくりへの関連付けは</p> <p>3 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくりについて</p> <p>(1) 信州大学航空機システム共同研究講座の成果を上げて、3年後に南信州キャンパスとするためにどう取り組むか</p> <p>(2) 南信州・飯田産業センター機能強化を、市として具体的にどう図っていくか</p> <p>(3) 中小・小規模事業者支援の体制は</p> <p>(4) 女性が多様な働き方ができる環境整備の取り組みは</p> <p>4 人と地域が輝く共生社会をめざして</p> <p>(1) 地域包括ケアシステム構築について</p> <p>① 医療と介護の連携についての現状と取り組みは</p> <p>② 地域包括支援センターの充実と地域ケア会議の取組状況は</p> <p>(2) 子どもを産み育てやすい環境の充実について</p> <p>① 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制の取り組みは</p> <p>② 周産期メンタルヘルスへの重要性について、市の認識は</p> <p>(3) 医療の充実と心と体の健康づくりについて</p> <p>① 飯田市立病院経営について</p> <p>ア 2018年診療報酬改定が市立病院経営に与える影響は</p> <p>イ 「飯田市立病院新改革プラン」の進捗状況は</p> <p>② 健康寿命・活動寿命延伸の現状と取り組みは</p> <p>③ 自殺対策について</p> <p>ア 当市の自殺の傾向、課題をどう捉えているか</p> <p>イ 自殺対策基本法改正のポイント、自殺対策の理念をどのように捉えているか</p> <p>ウ SOSの出し方教育の取り組みは</p> <p>5 災害に強いまちづくりの推進について</p> <p>(1) 当市がめざす防災・減災対策の総合的な理念と対応方針は</p> <p>(2) 住民が迅速かつ的確に避難できる行動を時系列で整理する行動計画表「タイムライン」の作成や、自らの避難行動を事前に定める「マイ・タイムライン」の作成を推進してはどうか</p>

No.	氏名	項目・要旨
3	井 坪 隆 (会派みらい)	<p>1 総合計画と財政見直しについて</p> <p>(1) 「いいだ未来デザイン2028」における進行管理の在り方は</p> <p>(2) 総合計画における財政見直しは</p> <p>(3) 「公共施設等管理計画」の全体像や財政の具体的な見直しに係る検討状況は</p> <p>(4) 「飯田市行財政改革大綱」に基づく「職員配置の適正化」の進捗状況はどうか</p> <p>2 「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画(2019年度)について</p> <p>(1) 昨年度(2017年度)の戦略計画の総括と2019年度の戦略計画は</p> <p>3 リニア関連事業とリニアを見据えたまちづくりについて</p> <p>(1) リニア関連事業について</p> <p>① 関係する住民の皆さん、事業所の皆さんへの対応は</p> <p>② 財政的な見直しはどうか</p> <p>(2) 地域振興について</p> <p>① JR東海及び長野県との関係は</p> <p>② 交通網の整備のあり方は</p> <p>4 地域産業の育成について</p> <p>(1) 工業の育成について</p> <p>① 航空宇宙産業の将来は</p> <p>(2) 農業の維持について</p> <p>① 「飯田市農業振興ビジョン」の推進にあたって、農業振興センターが協働で取り組む体制と進行管理は</p> <p>② 「地区農業振興会議」をいかに活性化するか</p> <p>(3) 地域の伝統を支える産業の育成について</p> <p>① 伝統産業の業種別の育成への取り組みは</p> <p>② 技能労働者(大工職など)を擁する産業への支援体制は</p> <p>(4) 産業政策について</p> <p>① 経済自立度の指標設定と産業基盤づくりをどう考えるか</p>
4	古 川 仁 (日本共産党)	<p>1 市長の政治姿勢といのち暮らしが最優先される市政について</p> <p>(1) 弱い立場の方に手を差し伸べる市政について</p> <p>① 4期目就任時の公約について</p> <p>ア 右肩下がり時代の「三重苦」の克服のなかに「自立心の欠如」への対応とあるが、どの様に進められたか</p> <p>② 市長が座長を務めた「ネクストステージに向けた都市自治体の税財政のあり方に関する研究会」について</p> <p>ア 来年の消費税10%の確実な実施を求めているが、その真意は</p> <p>(2) 医療・介護について</p> <p>① 国民健康保険について</p> <p>ア 全国的にも国保加入者の構成や生活状況が変化している中で、市の状況は</p> <p>イ 負担軽減のための措置についての課題は</p> <p>② 介護について</p> <p>ア 健康寿命を延ばすためにも介護予防は重要と考えるが、市は、どの様な取り組みをしているか</p> <p>イ 健康寿命を延ばすために「人とのつながり」が注目されているが、市の見解は</p> <p>ウ 全国的にも介護職員が不足しているが、市の状況と対策は</p> <p>エ 介護職員を確保・養成するために市独自の奨学金制度を確立してはどうか</p> <p>(3) 災害対策について</p> <p>① 現在市内で在宅医療機器を使用されている方を把握しているか</p> <p>② 大規模災害における長時間停電時の電源確保が心配される。バッテリーや発電機の貸し出しなど市の対応は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁	<p>③ 福祉避難所の設置状況は</p> <p>④ 倒木などで、長時間停電が予測されるが、対応・対策は</p> <p>(4) 教育・子育て支援について</p> <p>① 飯田版コミュニティスクールが始動して一年半が経過している。現状をどうとらえ、今後どのように進めるか</p> <p>② 全国的にも教職員の超過勤務が過労死レベルと聞かすが、市の状況把握と対策は</p> <p>(5) 暮らしについて</p> <p>① 新しいゴミの袋が扱づらいと聞かすが、実態の把握と対応は</p> <p>(6) 「リニア中央新幹線」対策について</p> <p>① このところの大規模災害から、市内2カ所に予定されている「リニア中央新幹線」工事に伴う残土処理地の土砂災害が懸念される。改めて、危険性など調査してはどうか</p>
5	福 澤 克 憲 (市 民 パ ワ ー)	<p>1 住み続けたいと思えるまちづくりについて</p> <p>(1) 飯田市の地域自治について</p> <p>① 地域自治組織の今後の方向性は</p> <p>② パワーアップ地域交付金の検証は</p> <p>③ 地域コミュニティの拠点整備をどう考えるか</p> <p>(2) リニア中央新幹線と三遠南信自動車道全通を見据えた地域公共交通の方向性について</p> <p>① リニア駅を経由する路線バス、高速バスの運行経路はどのようなものを想定しているか</p> <p>② 買い物弱者対策等の考えは</p> <p>③ 学生の通学における利便性についての考えは</p> <p>(3) 空き家対策について</p> <p>① 特別措置法・条例による「特定空家等」「準特定空家等」の状況は</p> <p>② 「特定空家等」「準特定空家等」について、緊急安全措置の実施、軽微な措置の命令・代執行の状況は</p> <p>③ 今後の課題は</p> <p>2 子育て支援と介護施策について</p> <p>(1) 飯田市の保育施設の考え方とその役割について</p> <p>① 公立保育所の役割とは</p> <p>② 延長保育に対する飯田市の役割は</p> <p>③ 公立保育所民営化方針の見直しは</p> <p>(2) 第7期介護保険事業計画の進捗状況について</p> <p>① 特別養護老人ホーム利用待機者の状況は</p> <p>② 介護職場の人材確保、育成への取組状況は</p> <p>3 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <p>(1) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進について</p> <p>① ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度の導入は考えられないか</p> <p>② 飯田市の契約「総合評価落札方式」について、労働賃金の適正な支払いや、ワーク・ライフ・バランスの取組状況も評価算定基準にすることはできないか</p> <p>4 産業振興施策について</p> <p>(1) 平成19年に施行された企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律(現:地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律)、飯田市の企業立地・振興促進事業補助金を活用した支援状況と効果は</p> <p>(2) 生産性向上特別措置法に基づく、設備投資の平成30年度取得分に対する企業啓発などの取組状況は</p> <p>(3) 農業振興センターを核として、農産物の販路拡大への支援はできないか</p> <p>(4) 平成30年1月に取得した森林管理認証を契機とし、木材の販路を確立することはできないか</p>

No.	氏名	項目・要旨
1	塚 平 一 成 (会派のぞみ)	<p>1 魅力発信に向けた地域運営について</p> <p>(1) ふるさと納税「飯田市20地区応援隊」について</p> <p>① 二年目を迎えて現時点の反響はどうか</p> <p>② 今後の在り方をどう考えるか</p> <p>③ 今後の取り組みについて</p> <p>ア 幅広い周知についてどう考えるか</p> <p>イ 人的交流の促進にどう繋げていくか</p> <p>(2) 地域協働による物産創出について</p> <p>① 市内の事例をどう把握しているか</p> <p>② 地域の魅力発信ツールとしてどう評価するか</p> <p>③ 地域の取り組みが産業に結びつく可能性についてどう展望するか</p>
2	福 沢 清 (会派みらい)	<p>1 今、国会で審議されている水道法の改正に係る飯田市の水道行政について</p> <p>(1) 水道法改正の根拠となっている事象について、飯田市の実態はどうか</p> <p>① 水道管路の老朽化の進行について飯田市の実態はどうか</p> <p>② 老朽化が原因の水道管事故の対策はどうか</p> <p>③ 水道施設及び管路の耐震化計画の策定はどうか</p> <p>④ 水道事業に係る職員数の推移はどうか</p> <p>⑤ 水道事業の収支の状態はどうか</p> <p>(2) 国が進めようとしている水道法の改正は飯田市として、どのように受け止めて今後の水道行政を展開していくか</p> <p>① 水道法改正の「広域連携」について飯田市ではどうか</p> <p>② 「官民連携」とりわけ「コンセッション事業」が新しい提案とされているが飯田市ではどのように受け止めているか</p> <p>2 高齢化社会に伴う農地利用の弾力的運用について</p> <p>(1) 農業従事者の高齢化と耕作放棄地の推移はどうか</p> <p>(2) 農業振興地域の見直しと、農用地区域の除外時における要件項目緩和の必要性はどうか</p> <p>(3) 「農山漁村再生可能エネルギー法」の飯田市での運用はどうか</p>
3	岡 田 倫 英 (会派のぞみ)	<p>1 リニア・三遠南信時代に向けた遊歩道の活用について</p> <p>(1) 観光、市民の健康増進における活用状況は</p> <p>(2) クアオルト(ドイツ語の「療養」)の考え方を反映出来ないか</p> <p>(3) 大交流時代に向けた付加価値づくりが出来ないか</p> <p>① (仮称)天龍峡大橋の開通をにらんだ試行はどうか</p> <p>② シビックプライド、ブランディングの向上を期待出来ないか</p> <p>2 地区公民館の維持・改築について</p> <p>(1) 地区公民館の施設が果たしている機能・役割は</p> <p>① 地区活動全般の拠点としてどうか</p> <p>② 災害対応の拠点としてどうか</p> <p>(2) 各施設の現状についてどのような課題があるか</p> <p>① 市民から寄せられている声は</p> <p>② 公衆無線LANを設置する考えは</p> <p>③ 昭和56年以降に建てられた施設に関する中長期計画の検討状況は</p> <p>(3) 市財政全体の中でどう位置付けていくか</p>
4	小 林 真 一 (公明党)	<p>1 ツアー・オブ・ジャパン(TOJ)の現状とこれからについて</p> <p>(1) TOJの開催地の決定条件は</p> <p>(2) TOJの誘致努力や開催時の創意工夫は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	小 林 真 一	(3) 国道256号工事に伴うTOJ開催への影響は (4) 飯田市における、児童、生徒、若者への影響力は (5) TOJにおける飯田市のPR効果をどう認識しているか (6) 名称「南信州ステージ」に込めた思いは 2 飯田市の自転車市民共同利用システムについて (1) 自転車市民共同利用システムの目的と現状について ① 自転車市民共同利用システムの目的と利用状況は ② 市民への啓発は ③ 安全管理の状況は 3 個人所有自転車の安全対策について (1) 自転車事故の危険性をどう認識しているか (2) 自転車保険の加入周知への対応は
5	木 下 容 子 (市 民 パ ワ ー)	1 地域の宝を生かしたまちづくりについて (1) 地域ブランド構築について ① 2014年度から実施された「飯田ランキング」は現在どのように生かされているか ② 「いいだ未来デザイン2028」戦略計画について ① 本年の戦略計画には「AVIAMA総会を契機として『小さな世界都市』への大きな一歩」との記載があるが、総会が終了した現在、今後の方向性は ② 2017年度戦略計画で取り上げられていた「シティプロモーション活動」や「シビックプライド醸成」の記載が、今年度は省かれている。シビックプライドについての考えは (3) 地域の宝を発掘し、磨き、情報発信するために ① 庁内部署間の連携は ② 市民との協働は
6	永 井 一 英 (公 明 党)	1 リニア時代を見据えて地域資源を生かすには (1) 国は、観光立国戦略を進めていると聞く。これからの観光政策の意味するものは。また市の考えは (2) 市内各地域では、それぞれの地域資源を生かし観光客の呼び込みも見据えた地域振興の取り組みが行われている。市はどのように盛り立てていくか (3) 風越山の活用について ① 風越山は、市のこれからの観光政策の中でも重要な資源になると考えるがどうか ② 丸山まちづくり委員会では、「未来へつなぐ風越山麓わくわくプロジェクト」をまちづくり委員会の事業として位置づけ、風越山を生かす取り組みを進めている。市はどのように関わるか ③ どの地域の取り組みも一定期間、財源的支援が必要となる。現制度は期間的に不十分だと思うがどうか ④ どの地域の取り組みも、身近なところにプロフェッショナルのコーディネーターが必要だと考えるがどうか ⑤ 今後、風越山の自然環境を保全していくことも重要になるが、市はどのように考えるか
7	清 水 優 一 郎 (会 派 の ぞ み)	1 上下水道事業について (1) 上下水道事業の現状と今後の課題は (2) 下水道事業における「合併処理浄化槽」の位置づけは (3) 「合併処理浄化槽」の維持管理、長寿命化の方針は (4) 飯田市の水のペットボトル化について ① これまでの取り組みの総括は ② 災害時利用などの可能性は ③ 飯田ブランドとしての可能性は

No.	氏名	項目・要旨
8	山崎昌伸 (会派のぞみ)	1 学校教育について <ul style="list-style-type: none"> (1) 小中学生の学力向上にどう取り組むか <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニティスクールは、学力向上にどう寄与するか (2) 小学校及び中学校における働き方のあり方への取り組みは <ul style="list-style-type: none"> ① 「部活動指導員」にはどのように対応しているか (3) ネット依存対策への取り組みは (4) 夏休みの延長についての考え方と対応は <ul style="list-style-type: none"> ① 県教育委員会の方針に、どのように対応する考えか ② 当事者(児童・生徒、保護者、学校)の意向をどのように反映するか
9	木下徳康 (会派のぞみ)	1 「いいだ未来デザイン2028」への市民の関与について <ul style="list-style-type: none"> (1) 松尾地区からの「スポーツパークIIDA構想」の要望について <ul style="list-style-type: none"> ① 提案をどう考えるか ② 通称「天竜グラウンド」の活用に関する検討状況はどうか (2) 市民からの提案にどう向き合うか 2 スーパー・メガリージョンで果たせる飯田市の役割について <ul style="list-style-type: none"> (1) リニア中央新幹線開通後の飯田市について <ul style="list-style-type: none"> ① 位置づけは ② 役割をどう考えるか ③ 「癒やし」、「健康づくり」を中心に進めるのはどうか ④ 将来の飯田市のスポーツ・健康への取り組みをどう考えるか
10	新井信一郎 (会派のぞみ)	1 リニア新時代に向けた、土地利用のあり方について <ul style="list-style-type: none"> (1) 国土利用計画について <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市計画について <ul style="list-style-type: none"> ア 概要は (2) 飯田市都市計画審議会 土地利用・景観部会について <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市拠点集約連携型都市構造推進戦略(立地適正化計画)について <ul style="list-style-type: none"> ア 検討の進め方は イ 進捗状況は ② 公共交通の機能維持について <ul style="list-style-type: none"> ア 高齢者の運転免許証返納の状況と、今後は イ 若者が自家用車を保有しなくなる時代変化への対応や、考えは ③ 人口密度と誘導施策の視点について <ul style="list-style-type: none"> ア 都市機能が集積されている区域の人口密度維持は イ 立地適正化計画で、どこまで居住を誘導しようとしているか ④ 地域拠点の視点について <ul style="list-style-type: none"> ア 地域拠点とは イ 地域拠点の役割は ウ 地域拠点は、都市機能集積区域に設定しなくて良いこととなっているが、現状、次世代の候補エリアとして機能していると考えられるが、どうか (3) 市内20地区の個性と役割について <ul style="list-style-type: none"> ① 時代にあった土地利用関連計画となっているか ② (仮称)リニア新時代市民会議など市民が意見を出し合える環境づくりは考えられないか

(6) 本会議等傍聴状況(H30)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第1回定例会	平成30年2月27日	2
	平成30年3月7日	21
	平成30年3月8日	47
	平成30年3月22日	7
第2回定例会	平成30年5月31日	1
	平成30年6月12日	28
	平成30年6月13日	64
	平成30年6月26日	
第3回定例会	平成30年8月28日	2
	平成30年9月5日	56
	平成30年9月6日	53
	平成30年9月21日	5
第4回定例会	平成30年11月26日	1
	平成30年12月5日	19
	平成30年12月6日	38
	平成30年12月7日	2
	平成30年12月18日	
計		346

4 市議会のあゆみ（昭和46年から）

年	議会の動き
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決 ・議長 近松宗一、副議長 今村輝男を選出 ・昭和45年から始まったコメの減反政策について多くの質問があった ・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった ・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決 ・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった ・日中国交回復を求める決議がされた ・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった ・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章の制定について質問があった ・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討 ・PCBなど公害の検査機能の充実を求める質問があった ・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った ・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択 ・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決 ・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた ・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった ・福祉や教育施策充実を要望する質問があった
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定 ・飯田に大学を設立すべきとする質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 伊原悦雄、副議長 新井安男を選出 ・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった ・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった ・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中 ・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中 ・石油危機打開を求める意見書を可決 ・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決

年	議会の動き
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で収拾され、可決 ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決 ・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決 ・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった ・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった ・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった ・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた ・飯田市民の消費生活を守る条例を可決
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決 ・中津川線の建設見通しをただす質問があった ・議長 伊原悦雄、副議長 林 昌平を選出 ・中央道開通に伴う飯田 I C 周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた ・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた ・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決 ・風越高校の跡地利用について質問があった ・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> ・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている ・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決 ・付加価値税新設に反対する意見書を可決 ・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置 ・市議会議員補欠選挙 ・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決 ・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた ・メッキ工場の建設を求める質問があった

年	議会の動き
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決 ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・広域水道の統合について質問があった ・飯田駅前再開発を求める質問があった ・円高不況対策について質問があった
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> ・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった ・水道事業の統合が特別議決をもって可決 ・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置 ・市立図書館の改築について質問があった ・合併促進特別委員会が設置された ・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決 ・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決 ・国際児童年に対する取組について質問があった ・議長 林 昌平、副議長 片桐 勲を選出 ・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった ・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった ・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決 ・モデル定住圏の指定に関して質問があった ・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった ・一般消費税創設反対に関する意見書を可決 ・市立病院の総合病院化について質問があった
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決 ・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたかどうかとする質問があった ・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置 ・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決 ・カモシカの食害防止策についての意見書を可決 ・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった ・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中 ・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった ・B型肝炎への対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙

年	議会の動き
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決 ・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業振興センターの建設について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・国際障害者年に際しての取組について質問があった ・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置 ・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決 ・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決 ・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった ・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決 ・長姫高校跡地のあり方について質問があった ・統合中学の進捗状況について多くの質問があった ・A議員の問責決議案が可決 ・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決 ・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決 ・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置 ・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった ・議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決 ・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった ・美術博物館の構想について質問があった ・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった ・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決 ・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった ・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置

年	議会の動き
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・40人学級早期実現に関する意見書を可決した ・松くい虫対策について質問があった ・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった ・非核平和都市宣言を可決 ・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決 ・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった ・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決 ・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決 ・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決 ・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決 ・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった ・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった ・テクノハイランド構想について質問があった
昭和60年 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> ・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった ・上郷町との早期合併を求める質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決 ・ゴミ焼却場移転問題について質問があった ・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった ・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった ・路線バスの廃止問題が質問された ・鼎との合併一年後の評価について質問があった ・学校の「いじめ」問題について質問があった ・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった ・婦人の地位向上のための施策について質問があった ・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・上郷町との合併に向けた取組について質問があった ・コンピューター専門学校の建設費について質問があった ・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置 ・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった ・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決

年	議会の動き
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった ・美術博物館の性格と財源について質問があった ・公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決 ・暴力団追放都市宣言を可決 ・飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった
昭和62年 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> ・売上げ税導入に反対する意見書を可決 ・美術博物館建設特別委員会を設置 ・中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった ・エイズ対策について質問があった ・議長 平沢與一、副議長 細田直彦を選出 ・屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決 ・老人福祉の中間施設の計画について質問があった ・市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた ・市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった ・世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジエール市との姉妹都市締結について質問がされた ・中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った ・東中学校の教師死亡に関して質問があった ・人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスのシャルルヴィル・メジエール市と国際友好都市の締結をすることを可決 ・美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった ・三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった ・新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承 ・上郷町との合併協議30項目を了承 ・天竜川治水対策、四者協議の結論を了承 ・ギフチョウの保護対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙 副議長 関島一郎を選出 ・コメの市場開放阻止に関する意見書を可決 ・保育園の空き室を託老所にする質問があった
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中 ・リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 塩澤 昭、副議長 竹村仁實を選出 ・土曜閉庁関連条例を可決 ・新市立病院建設の基本計画を了承

年	議会の動き
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・有線放送局の不祥事に関して質問が集中 ・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった ・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった ・天竜川治水対策の基本計画を了承 ・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承 ・土地利用計画の策定の必要性について質問があった
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された ・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた ・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった ・県議会議員の飯田市区定数1名増を求める意見書を可決した ・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった ・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった ・松尾地区の内水排除について質問があった ・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった
平成3年 (1991年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議長 竹村仁實、副議長 松江良夫を選出 ・竜東地区の開発計画について質問があった ・農村集落の活性化を図る地域マネジメント事業について質問があった ・議長 實原 裕、副議長 内山照美を選出 ・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった ・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった ・りんご並木の整備構想について質問があった ・MRSA感染対策について質問があった ・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった ・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった ・平和予算の創設を求める質問があった ・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった ・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学誘致についての質問があった ・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった ・学校5日制の受け皿について質問があった ・オフトークでの議会本会議中継はじまる ・若者定着と工業振興について質問があった

年	議会の動き
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた ・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された ・市役所の完全週休2日制の導入について質問があった ・エイズに対する予防啓発について質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・上郷町と平成5年7月1日に合併することを議決した ・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった ・中学生の問題行動に対する指導について質問があった
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決 ・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった ・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 今村八束、副議長 澤柳辨治郎を選出 ・上郷との合併関連議案68件を可決 ・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決 ・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった ・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、5名が市議会議員に仲間入りした ・シャルルヴィル・メジエール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された ・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置 ・みどりの基金創設について質問があった ・県営サッカー場の誘致について質問があった ・不況下での産業振興策について質問があった ・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決 ・地方分権の実現を求める意見書を可決 ・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決 ・4年制大学の誘致について質問があった ・市町村の共同出資のバス運行について質問があった ・環境、文化、情報化、公共施設の4つのテーマで政策調査研究部会が発足 ・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった ・サッカーくじ法案化について質問があった ・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった ・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった ・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が3日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。

年	議 会 の 動 き
平成 6 年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催 ・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジュール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置
平成 7 年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決
平成 8 年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> ・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決 ・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌0157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成 9 年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート

年	議会の動き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み ・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 ・第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 ・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告 ・第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 ・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 ・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ） ・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告 ・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 ・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 ・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生） ・第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 ・森林・林業・林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足 ・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 ・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決 ・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 ・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決

年	議会の動き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ) ・「飯田市議会あり方研究会」を発足 ・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 ・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入) ・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出 ・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 ・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正) ・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置) ・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置 ・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出 ・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について) ・市議会議員補欠選挙で2人選出
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 ・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人) ・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出 ・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 ・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書) ・「個人情報保護条例」を可決 ・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更) ・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会本会議の映像生中継をスタート ・「男女共同参画推進条例」を可決
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） ・飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決 ・第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 ・市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 ・飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 ・「飯田市土地利用基本条例」を可決 ・「環境文化都市宣言」を可決 ・第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 ・議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 ・「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ） ・「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定） ・議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 ・決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） ・「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） ・市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）

年	議会の動き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決 ・「土地利用計画特別委員会」を廃止 ・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） ・第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 ・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 ・市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 ・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取組を強化） ・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ） ・第3回議会報告会を開催（市民469人が参加） ・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 ・第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 ・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 ・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額） ・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ ・「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に） ・第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 ・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 ・新庁舎実施設計を了承

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される） ・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率58・3%議員数23人） ・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天竜峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加） ・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催 ・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。 ・第2回定例会から淡路結びの水引を議場に設置 ・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問

年	議 会 の 動 き
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回議会報告会を開催（市民498人が参加） ・ 新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意
平成28年 (2016年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・ 基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査 ・ 天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・ 地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始 ・ 議会だより200号記念号を発行 ・ 7月から9月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業） ・ インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日 総務委員会から） ・ 第9回議会報告会を開催（9月～10月、6会場で市民554人が参加） ・ 議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決 ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（2回目：2月、3回目：11月）
平成29年 (2017年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰1%戦略」を学ぶ（1月） ・ 社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（3月） ・ 産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、5つのテーマについて2年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（3月） ・ 飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（3月） ・ 市議会改選（4月16日執行、投票率 57.95%、議員23名うち新人5名） ・ 議会出前講座を山本小学校で実施（6月） ・ 第5次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（7月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、4月よりスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（9月） ・ 第10回議会報告会を開催（10月、6会場で市民582人参加）
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（1月、6年生143人） ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（1月）

年	議 会 の 動 き
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（2～3月） ・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（6月） ・飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（7月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（7月－9月） ・社会文教委員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（9月） ・第11回議会報告会を開催（10月、7会場で市民654人参加） ・予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）
平成31年 (2019年)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（1月） ・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（1月） ・一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（2月） ・総務委員会が、市内3か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（2月） ・第1回定例会において市長が初の反問権を行使（3月）
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（5月） ・第1回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を受けることとなった（5月）

VI 参考資料

1 都市宣言

① 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年 6月26日

飯 田 市 議 会

② 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年 6月29日

昭和61年 6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

③ 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

④ 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

⑤ シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなご一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

⑥ 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

⑦ 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

⑧ 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化にまつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

⑨ 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合っであらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

⑩ 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

2 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

3 友好都市締結

盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県
飯田市
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県
シャルルヴィル・メジエール市
市長 ロジェ・マス

4 飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成 龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成 丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジュール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足 オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9. 7	エコタウン地域に指定される
8	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路口会議
12	J Aみなみ信州発足
平成10. 2	市民バス運行開始
2	長野オリンピック冬季競技大会開催
3	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
3	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
4	天竜川治水対策・龍江側工事完成
6	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
8	第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェステバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーヰチ氏を迎え開催
平成11. 3	市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告)
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
4	飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
7	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12. 1	I S O 14001認証取得
3	市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
4	介護保険制度がスタート
7	丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13. 1	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
3	政務調査費の交付に関する条例の制定
4	市議会改選
7	橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
8	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだFM開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ!ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路1工区(飯田山本IC~天竜峡IC)が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場
	人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催
	アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代(最終処分場)竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通(上郷丹保地区~高森町下市田地区) 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置(市役所内)
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009(第9回)で飯田市が総合2位(昨年3位)
7	集中豪雨による土砂災害(南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害)
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23. 1	飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
3	東日本大震災発生。避難者の受け入れ
3	飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
5	国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23. 6	三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催
	日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
9	フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
9	菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
12	第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24. 4	飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
5	エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
7	第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
8	ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
11	市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25. 3	東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点から ラウンドアバウト方式に変更して整備
4	「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な 地域づくりに関する条例が施行
4	市役所新庁舎建設工事着工
8	人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
9	リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26. 2	観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
3	恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
6	南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
10	航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事実施計画が認可される
12	市役所新庁舎完成
平成27. 1	市役所新庁舎開庁し業務を開始
2	長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催）

年 月	事 項
3	菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
4	パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
4	リニア中央新幹線中心線測量開始
7	こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
9	飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジエール市を訪問し、AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
10	マイナンバー制度が始まる
10	国道152号小道木バイパスが開通
平成28. 3	数えて7年に1度の飯田お練りまつりが開催され、35万の人出で賑わう
4	教育長に代田昭久教育長が就任
4	高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
5	飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
6	農地転用許可が市に権限移譲（6月1日付で指定市町村に指定）
7	「市田柿」が地理的表示（GI）保護制度に県内で初めて登録される
9	飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
10	飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
10	52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
11	市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
11	天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
12	「地域ぐるみ環境ISO研究会」設立20周年記念
平成29. 4	飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」スタート
4	旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
4	天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
5	上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
6	「信州・伊那谷(ローカル)の個性で世界(グローバル)を惹きつけ、世界へ発信する玄関口(ゲートウェイ)」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
8	市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
9	飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
10	市制施行80周年記念式典が開催される
12	南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工(燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行)

年 月	事 項
平成30.	<p>2 市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工</p> <p>3 三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通</p> <p>3 飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働</p> <p>4 上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる</p> <p>8 満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始</p> <p>8 新人形とけい塔「ハミングパル」が完成</p> <p>8 世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）</p> <p>8 AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催</p> <p>8 シャルルヴィル・メジエール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジエール通り」命名式等の記念式典を開催</p> <p>10 吾妻町と東和町の2つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞</p> <p>11 特養飯田荘が「ゆとびいいだ」としてリニューアルオープン</p>
平成31.	<p>1 南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所</p> <p>2 下久堅ふれあい交流館が完成</p> <p>3 上郷自治振興センター・保健センターが完成</p>

飯田市市歌

堀内 敬三 作曲
宮脇 至 作詞
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峰にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲く美し町

協す力にいぶきも新た

のびよ久遠に我らが飯田

飯田市歌

犬塚 利国 作詞
飯田 景広 編曲

一、山紫に水明らかに

生業栄え人皆和して

希望の光 遍く充てり

げに飯田市の輝く天地

二、南信濃の陽は照り映えて

四季行楽に名を負うところ

観光都市の誉れも添ひて

げに飯田市の輝く前途

三、落葉に残す千古の偉業

烈婦偲ぶ 不断の煙り

大儒の松風 今なお高し

げに飯田市の輝く誇り

四、ああ天恵に幸負う我等

協同進取の旗なびかせて

目指すは彼方 久遠の理想

げに飯田市の輝く使命

飯田市議会要覧 令和元年度版

発行日 令和元年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局
〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地

TEL 0265-22-4523 (直通)
0265-22-4511 (代表： 内線 5611)

FAX 0265-53-8821

E-mail igikai@city.iida.nagano.jp

URL <https://www.city.iida.lg.jp/>